第二編

《教育研修部》

第１章　研究の方向性

１．研究主題

「思考力を高める学習指導のあり方」

～「書く」・「話す」活動を通して～

２．主題について

多くの人々が豊かで便利な生活をするようになった現在，次第に人々の間に共有されていた一般的な規範や価値観が問題化され、こだわりもなくなってきた。二者択一で選ぶことはできるが，考えることには弱い。学力テスト等において，記述式の問題で何も書かない割合が高い。経済協力開発機構が実施した国際学習到達度調査では，応用力が課題となった。

そこで，昨年度は『思考力を高める学習指導のあり方』を主題として「課題を把握する力」「見通しをもって解決方法を考える力」「理由付けしていく力」「考えを広げたり深めたりする力」「一般化する力・まとめる力」を思考力ととらえ，それを高めるために研究を進めてきた。授業実践では，それぞれの場面ごとに「目指す子どもの姿」の実現に向けた手だてを取り入れ，指導を行った。

小学校においては、問題に出会った時の素朴な疑問や解決の見通しを「問い」という形でノートに書かせた。その問いに対するまとめを自分の言葉で書くことを通して考えを整理させた　中学校では「１日１ページのノート作り」として「本時の学習部分」と「学び直しの部分」に分けて記述させ、学習の振り返りがしやすく、活用できるノートが作れるようになった。磨き合う場面では、そのノートを活用して自分の考えを整理してわかりやすく他の人に伝えたり、他の人の考えと比べ、必要に応じて修正したりする姿が見られた。学習過程の場面ごとに設定した手立ては、子どもの「筋道を立てて考える力」を高めることに有効であった。一つの手立てだけでなく、思考の流れに沿って取り入れた「思考力を高める上でのめざす子どもの姿」の実現に向けた手立てを継続していくことが、思考力を高めていくと認識した。

本年度は、昨年度から引き続いて「思考力」について取り組んだ。思考力と表現力は両輪であるとおさえられていたが、「思考力」をめざす上で表現力は、思考過程を整理するために欠くことができないと考えた。そこで、「書く」「話す」をキーワードとして、子どもの思考力を高めるためにはどのような学習指導が有効なのか。小学校と中学校の授業実践を通して明らかにしていく。

３．研究の目標

児童生徒の思考力を高めるためにはどのような学習指導が有効なのか，授業実践を通して明らかにする。

４．研究の仮説

【仮説１】

追究する場面において、理由や根拠をはっきりさせて書く活動を工夫していけば、子どもの思考力を高めることができるであろう。

【仮説２】

磨き合う場面において、友だちの考えと関連させて自分の考えを深める話し合い活動を工夫していけば、子どもの思考力を高めることができるであろう。

昨年度までの研究の成果から，児童生徒の思考力を高めるには，問題解決的な学習過程を取り入れることが有効であると考えた。問題解決的な学習過程を「①課題把握，②見通しを持つ，③追究する，④磨きあう，⑤まとめる」の５場面で構成し，それぞれの場面で高めたい思考力とめざす子どもの姿を以下の表のようにおさえた。

特に今年度は、学習過程の中で、「追究する」場面と「磨き合う」場面の思考力を高めることに重点をおいて実践研究を進めた。

５.「思考力」を高める上でのめざす子どもの姿

学習過程	高めたい思考力	めざす子どもの姿
a 課題把握	課題を把握する力	①問題（きかれていること）や条件（わかっていること）は何かをとらえる。 ②問題のイメージがつかめる。
b 見通しをもつ	見通しをもって解決方法を考える力	①今まで学習してきた問題と同じところ（にているところ）は何か，ちがうところは何か，をとらえる。 ②およその解決方法，答えの予想を持つ。
c 追究する	理由付けしていく力	①考えの根拠となる情報を読み取ることができる。 ②理由や根拠をはっきりさせて自分の考えを書く。 ③他の方法や視点がないか考えようとする。
d 磨き合う	考えを広げたり深めたりする力	①自分の考えを自分の言葉で話す。 ②自分の考えを他の人と比べることができる。 ③自分の考えを必要に応じて再構築することができる。
d まとめる	一般化する力 まとめる力	①きまりを見つける。 ②よりよい考えを自分の言葉でまとめる。 ③新たな課題を発見する。

６．研究の経過

回	月　日	段　階	主　な　活　動　計　画
1	５．15	課題発見	昨年度の研究の総括と今年度の研究の方向性について
2	６．３	研究の	今年度の研究主題・方向性の明確化
3	６．23	基本構想	研究主題・検証授業者の決定　研究仮説の検討
4	８．５		検証授業の構想　児童生徒の実態調査項目・指導計画の検討
宿泊	８．19 ８．20	仮説検証準備	研究主題・方向性の確認　検証仮説の検討 検証授業の内容の検討
5	８．26		研究仮説及び仮説検証のための手立ての検討
6	１０．３		検証授業の計画・内容の検討　検証授業の準備
	１１．２	検証授業	小４国語「アーチ橋の仕組み」　　鴨川市立東条小学校　佐粧光一教諭
	１１．２		中３社会「国際社会での日本の役割」鴨川市立鴨川中学校　渡邉泰彦教諭
7	１１．28		検証授業後の分析（手立ての有効性等）
8	１．９	まとめ	手立ての有効性と仮説の検証　紀要原稿作成
9	１．23		研究の成果と課題の検討　研究紀要原稿作成・吟味
	２．10	発表	安房教育研究所発表会　県教育研究所連盟発表（２．12）

第２章　小学校の実践

１．単元名

第４学年　国語

「すじ道を立てて考えよう　アーチ橋の仕組み　実験したことをもとに」

２．単元について

（１）新学習指導要領との関連

本単元は，下記の新学習指導要領と関連している。

C　読むこと イ　目的に応じて，中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え，文章を読むこと。 エ　目的や必要に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読み，文章などを引用したり要約したりすること。 B　書くこと イ　文章全体における段落の役割を理解し，自分の考えが明確になるように，段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 文及び文章の構成に関する事項 (ク)　指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し，使うこと。

（２）単元観

本単元は，「読むこと」領域が中心となる説明文の「アーチ橋の仕組み」と，そこで読み取った論理展開や筆者の工夫を利用して記録文を書く「実験したことをもとに」で構成されている単元である。

【アーチ橋の仕組み】

○３枚の写真の比較から始まる書き出しの工夫

第１文から「左の三まいの写真を見くらべてみましょう」と，簡潔にはじめ，アーチに着目させるようにしている。本来橋には必要なさそうなアーチが共通してあることから，疑問を生じさせ，問題意識をとらえやすいようになっている。

○問いかけ→答えによる述べ方

〔大段落１〕

「よくにたところがあるのに気がついたでしょうか。」

→「そうです，どの橋にも，大きなアーチがあります。」

〔大段落２〕

「石をアーチの形に組み合わせるには，どのようにすればよいのでしょうか。」

→「こうして，しっかりした石づくりのアーチ橋が完成するのです。」

必ず問いに対する答えが述べられているので，安心して読み進められるようになっている。

○ナンバリングによる構成のわかりやすさ

〔大段落１〕

「まず」「次に」「このように」という言葉を用いて「アーチが重いものをささえるのにてきして」いるということを確かめる実験について，実験内容・結果を順を追ってわかりやすく説明している。

〔大段落２〕

「まず」「次に」「最後に」

「石をアーチの形に組み合わせる」手順について，作業する順に説明している。

○写真・図の効果的な使用

文章と，写真や図を関連づけて読むことで，イメージ化が図りやすくなっている。

〔大段落１〕

・アーチという形状に気づかせるための３枚の橋の写真

・実験を説明するための３枚の写真(「まず」「次に」「このように」の説明に対応している)

〔大段落２〕

・石造りのアーチ橋の写真

・石をアーチの形に組み合わせることを説明する３枚の図(「まず」「次に」「最後に」に対応している)

〔大段落３〕

・昔から使われてきたスペイン・日本の３枚の橋の写真

○身近なものを使った実験から普遍的なものへと展開する筆者のわかりやすい主張

本文の最後に筆者の主張がある。大段落１で身近な材料を用いた実験をし，大段落２では一見難しそうに感じる石づくりのアーチ橋をつくる方法を説明している。

大段落３では，大段落１・２で述べたことをまとめて，実はヨーロッパや中国，日本でアーチが重さを支える仕組みそのものが広く普及しているという事実を明らかにしている。そのことで，「昔から受けつがれてきた人々のちえは，今もこうして生きているのです。」という筆者の主張を受け入れやすくなっている。

【実験したことをもとに】

○実際の作業をメモにまとめる

「方法，結果，気づいたことや考えたこと」という視点を与えてメモをとることができるようにしている。また，絵や図を入れる等，わかりやすくまとめるこつを示してある。

○記録文を書く活動

「アーチ橋の仕組み」の板目紙を使った実験の手順を生かし，実験メモにまとめたことを元に順に組み立てをはっきりさせて書く学習である。

読んで思考したことを活用して「記録文」という形で表現するという，これから特に求められていく力を身につけるための学習としてふさわしい内容となっている。

以上，内容や説明文を書く時の視点等，４年生の児童にとってわかりやすい単元構成となっている。

（２）指導観

「アーチ橋の仕組み」の内容を正しく読みとらせながら，論理展開に気づかせたい。本文の並び替えをすることで接続語のもつはたらきを確認しながら，本文に書き込みをして読み進めていく。読みとったことを元に話し合うことで，内容についての理解を深められるようにしたい。

また，実験したことを元に記録文にまとめることで，筆者の論理展開に再度注目させるとともに，わかりやすい書き方を考え，よりよい表現につなげていきたい。

３．仮説とのかかわり

昨年度の研修では，「論理的思考力」を高めることを目的とし，問題解決のさまざまな場面（５つの場面：課題把握→見通しをもつ→追究する→磨き合う→まとめる）での支援を工夫した。それぞれの場面において有効な手立てを検証することができた。

昨年度の成果を受けて，今年度は５つの場面のうちの「追究する場面」と「磨き合う場面」に重点を置き，思考力を高めるための手立てを探っていこうと考えた。書く・話し合う活動を工夫していけば子どもの思考力を高めることができるという考えのもと，以下の仮説を立てた。

〔仮説１〕

追究する場面において，理由や根拠をはっきりさせて書く活動を工夫していけば，子どもの思考力を高めることができるであろう。

〔仮説２〕

磨き合う場面において，友だちの考えと関連させて自分の考えを深める話し合い活動を工夫していけば，子どもの思考力を高めることができるであろう。

【具体的な手立て】

〔仮説１　書く活動の工夫〕

（１）理由や根拠をはっきりさせるノートづくりの工夫

「理由付けしていく力」を高めるためには理由や根拠をはっきりさせて自分の考えを書くことが必要である。そのために子ども達にノートづくりを意識させる。ポイントは次の通りである。

①自分の思いや考えを書く

本単元では，書きこみ用ノート（本文を印刷したシートをノートに貼ったもの）に，本文の横に読み取った内容についての自分の考えや語句と語句の関係性などを書き込んでいく。そうすることで言葉に着目し，それを根拠として自分の考えを表現していくようにする。

②ノートチェック

ノートの書きこみに対して，指導者が朱書きを入れる。そのことで指導者が子ども一人一人の考えを把握できる。また，自分一人では考えに自信が持てない子でも，丸がついたりコメントが入ったりしていることにより，自信を持って話し合いに参加できると考える。

③見返してわかりやすいノートづくり

ノートは個人の思考を記す場である。ノートを見やすく工夫していく手立てをとることで，子ども達のノートは構造化されてくる。そうすることで思考が整理され，よりよい考えが導き出される場となると考える。また，このノート作りは他教科の学習にも役立つと考えられる。

(2)文章構成に着目させるための素材提示の工夫
①ワークシートの工夫
導入の際，教科書にある３種類のアーチ橋の写真を提示してアーチ部分に目を向けさせる。その後，大段落１を形式段落ごとに並び替えた資料を配布し，正しい順序に並び替えさせ，並べた根拠を書かせる。根拠を元に話し合い，「まず」「次に」「このように」という言葉に全員が着目できるようにする。
②段階を踏んだ根拠を書かせる活動
「まず」「次に」「このように」のような接続語に着目できるようになったら，大段落２の学習に入る。大段落１と同様に写真と図をまず提示する。そして，本文を意図的に並び替えた資料を配る。それを正しい順に並び替えさせ，並べた根拠をノートに書かせる。
このように，学習方法を共通化し，難易度を上げていくという学習をしていくことにより，思考の流れをスムーズなものにすることができると考える。
(3)学んだことを生かした記録文づくり
「アーチ橋の仕組み」の表現の工夫を利用して「わりばし車」(わりばし製でゴムを動力として走る車)の作り方や工夫を記録文として書く。単元の導入段階で予告しておくことによって，見通しを持って学習を行えるようにしたい。読み取ったことを生かして書くという活動を通して，筋道を立ててわかりやすく説明する大切さを実感できるのではないかと考える。
〔仮説２　話し合い活動の工夫〕
(1)接続語を意識した話し合い活動

・それを詳しくいうと～	［分析］
・だから，まとめて	［統合］
・～と比べると，～	［比較］
・～と違って，～	［関連］
・例を挙げると～	［具体化］

友だちの考えとの相違や関連づけを意識させるために，接続語のある発言・授業となるように指導する。接続語の掲示物を教室に貼り，いつでも見られるようにしておく。また，接続語を意識して発言した児童を賞賛することで，他の児童のよいモデルとしていきたい。語り出しの言葉に気をつけさせるとともに，指導者自身も語り出しの言葉を意識していく必要がある。。
また，指導者の指名による発言だけでなく，同じ箇所に着目した児童を起立させ，意見の相違を考えて判断し，つなげて発言する機会も増やしていきたい。
(2)話し合う形態の工夫
一人一人の発言の場を保証し，自信をもって発表できるよう，話し合う形態を工夫する。少人数だと話しやすいという心理的な面を考慮し，はじめにペアやグループで話し合ってから全体での話し合いにする等，意図的に話し合いの形態を工夫していく。
(3)図や写真等を活用した話し合い
あらかじめ教科書の図や写真を用意し，板目紙を使った実験や石でできたアーチ橋をつくる手順を説明するときに使えるようにしておく。視覚にうったえたり操作したりできるものと関連づけて説明することで，理解力の差を埋め，話し合う場作りとして利用していきたい。
また，文章を図や写真等を使って説明したり，反対に言語化したりすることで，より理解を深められるようにしたい。

４．全体計画
（1）指導目標
【関心・意欲・態度】
・アーチ橋の仕組みについて，進んで要旨をとらえながら読むことができる。
・実験内容を意欲的に文章で表そうとする。
【話すこと・聞くこと】
・考えの根拠をもって話し合うことができる。
【読むこと】
・アーチが橋の組み立てに使われる理由や石の橋のつくりかたについて正確に読み取ることができる。
・指示語や接続語に着目して論の展開を読み取ることができる。
【書くこと】
・指示語や接続語に着目し，順を追って記録文を書くことができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】
・指示語や接続語が果たす役割を理解し，使うことができる。

（2）全体計画

「思考力」を高める上でのめざす子どもの姿

学習過程	高めたい思考力	めざす子どもの姿
c 追究する	理由づけしていく力	①考えの根拠となる情報を読み取ることができる。 ②理由や根拠をはっきりさせて自分の考えを書く。 ③他の方法や視点がないか考えようとする。
d 磨き合う	考えを広げたり深めたりする力	①自分の考えを自分の言葉で話す。 ②自分の考えを他の人と比べることができる。 ③自分の考えを必要に応じて再構築することができる。

次	時	ね ら い	お も な 学 習 活 動	めざす子どもの姿 (c ①等…上表と対応)
一 アーチ橋の仕組み	1	大段落１(p.8 ～ p.10 L9)の本文を正しく並び替えることで，指示語や接続語のはたらきについて考えることができる	・３枚の写真を提示し，共通しているアーチの部分に着目させる ・順序がばらばらになっている本文を接続語や内容を手がかりにして並び替え，根拠をノートに書く ・並べた理由をペアや全体で話し合う	c ①②
	2	大段落１を読み，アーチ橋が重いものを支えるのに適しているという仕組みについて理解することができる。	・一人読みをし，必要なことを書き込む。 ・読み取ったことについて話し合う ・文章を要約し，板目紙を使った実験をする	c ③ d ①②
	3 本時	大段落２(p.10　L10)の本文を正しく並び替えるとともに，石造りのアーチ橋が完成するまでの過程をわかりやすく説明することができる	・写真や図を手がかりにして本文を正しい順に並び替える ・大段落２について一人読みをする ・読みとったことについて説明し合う ・友達と話し合ってよかったことをまとめる	c ①② d②③
	4	大段落１・２を読み，「問題提起→説明」という流れや，順序を表す接続語を用いていることに気付くことができる	・大段落１・２を黙読する。 ・大段落１・２の共通点を探し，ペア等で伝え合う ・全体で確認する	c①③ d ①②
	5	大段落３を読み，アーチが橋に昔から使われてきた理由を知り，筆者の主張を読み取ることができる	・大段落３を書き込みをしながら読む ・「アーチ」という共通点に関して読み取ったことを話し合う ・筆者の主張について話し合う	c ①②③ d ①②
	6	学習したことをもとに小見出しをまとめ，文章の構成をとらえることができる	・大段落ごとにキーワードを抜き出す ・キーワードを組み合わせて小見出しをつくり，話し合う	c ① d ①②③
二 実験したことをもとに	7	わりばし車の作り方を知り，制作メモを書くことができる。	・指導者の説明を元に制作メモを書く ・制作メモを元にわりばし車を作る ・走らせてみた結果や気付いたこと等をまとめておく ・工夫したいことを考える	c ①②
	8 ～9	メモをもとに，順を追ってわかりやすく記録文を書くことができる。	・記録文を書く 〈書く順序〉前書き→用意したもの→作り方→結果→わかったこと→考えたこと→工夫 ・書いた記録文がわかりやすいか見直す	c② d②
	１０	書いた記録文を友だちと読み合い，評価することができる	・友達同士で記録文を読み合う ・読んだ記録文についてわかりやすさの判定をする	d②③

５．本時の指導

（１）ねらい

【読むこと】

接続語や指示語を根拠として，石づくりのアーチ橋のつくり方を正しく読み取ることができる。

【話すこと・聞くこと】

石づくりのアーチ橋のつくり方について，要点をまとめ，順序よく説明することができる。

（２）展開　（３／１０）

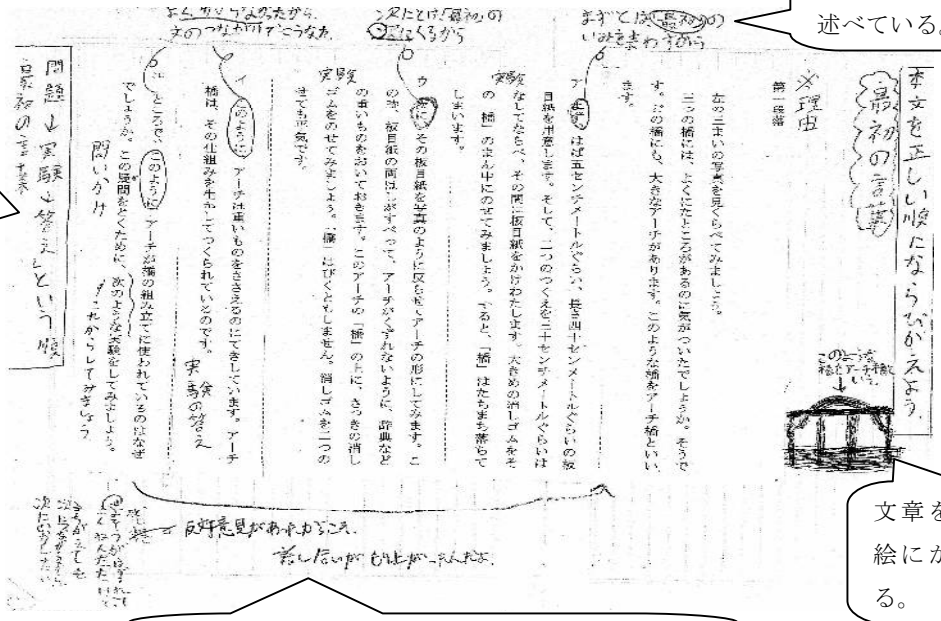
<table>
<tr><th>時配</th><th>学習活動と内容</th><th>指導形態</th><th>指導者の支援の工夫と評価(☆)</th><th>資料</th></tr>
<tr><td>2</td><td>１．課題を把握する
本文を正しい順にならびかえよう</td><td>全体</td><td>・大段落１の学習内容を想起させる。</td><td>第２段落を文ごとにばらばらの順番にしたプリント
掲示用本文</td></tr>
<tr><td>5</td><td>２．本文を正しい順に並び替え，その根拠をノートに書く
「大段落１と同じように順番を表す言葉に気をつけるとわかる」</td><td>個</td><td>・つまずいた時は周りの友達と相談しながら進めてもよいことを伝える。
・文のはじめを手がかりにするという見通しを持たせてから取り組むようにする</td></tr>
<tr><td>8</td><td>３．並べた順番とその理由について全体で話し合う
○接続語と指示語に気をつければわかる
【使われている接続語】
・では，まず，次に，そして，最後にこうして
【使われている指示語】
・この，そこに</td><td>全体</td><td>☆根拠をもとに並び替えることができているか(プリント)
・本文を並べながら説明できるように短冊に書いておく
・接続語・指示語に着目できるように板書する</td></tr>
<tr><td colspan="5">石をアーチの形に組み合わせる方法を調べ，わかりやすく説明しよう</td></tr>
<tr><td>2</td><td>４．大段落２を音読し，大まかな内容をつかむ</td><td>全体</td><td>・読み取った後に説明し合うということを伝えておく</td><td>書き込み用本文</td></tr>
<tr><td>１０</td><td>５．一人読みをして重要な語句にサイドラインを引き，全体で確認する</td><td>個
全体</td><td>・「まず」「次に」「最後に」何をするかを全体でおさえておく
・順序を表す接続語や「土台」「台形の石」「かなめ石」などのキーワードを確認する</td><td>キーワードを書いた短冊
図や写真</td></tr>
<tr><td>5</td><td>６.読み取ったことを図や写真を使ったり，自分で絵や図を書いたりしてペアで説明し合う
「まずじょうぶな土台をつくります」
「次に両はしから台形の石をつんでいき」
「そして，そこにかなめ石とよばれる石を」
「最後に木のほね組みを取りはずせば」
「こうして，しっかりした石づくりのアーチ橋が完成するのです」</td><td>ペア</td><td>☆要点を押さえてアーチ橋のつくり方を理解しているか(ノート)
☆要点をおさえ，順序よくアーチ橋のつくり方を説明しているか(発表)
<table><tr><th>実　態</th><th>支　援
(評価を生かす手だて)</th></tr><tr><td>図や絵を使ってわかりやすく説明できる</td><td>全体での発表に生かし，よい方法が広がるようにする</td></tr><tr><td>わかりやすく説明できない</td><td>図や絵を活用できるよう支援する</td></tr><tr><td>説明することができない</td><td>教科書に立ち戻り，本文を根拠に説明させる</td></tr></table></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td>７．全体に説明をする</td><td>全体</td><td></td><td>石づくりのアーチ橋の模型</td></tr>
<tr><td>2</td><td>８．学習のまとめを考える</td><td>全体</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">キーワードを使って順序よく説明するとわかりやすい</td></tr>
<tr><td>4</td><td>９．学習の感想をまとめる</td><td>個</td><td>・時間によって数名発表させる</td><td></td></tr>
</table>

6. 児童の変容
〔仮説1 「書く」活動の工夫〕
(1)理由や根拠をはっきりさせるノートづくりの工夫

自分の思いや考えを書く

本単元では，児童が言葉に着目し，思考の流れを整理して根拠をもとに自分の考えを書くために，書き込み用ノートを配布し，ノートづくりを行った。この方法は，指導者側であらかじめ記入例を提示した。児童は次第に，キーワードとなる言葉に着目し始め，それらをもとに考えたことをノートに書き込むようになった。また，文章の意味を理解しようと，必要に応じて絵や図で表し確認する児童も見られた。

【児童のノート】



言葉に着目し，理由を述べている。

自分なりのまとめが書かれている。

文章を参考にして絵にかき表している。

指導者のコメントが励ましの言葉となっている。

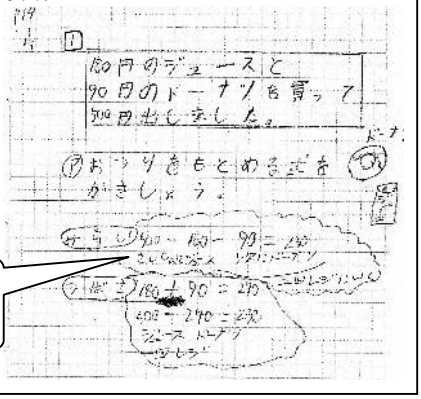
ノートチェック

毎時間，授業後にノートを集め，児童の考えを把握した。また，そのノートのよさを児童に紹介する機会も設けた。友達の書き方を参考にする子も現れた。また，指導者がコメントを書くことで，児童は，自信をもち発表する姿が見られるようになった。そして，友達にも自分の考えを広げたいという思いももつことができた。

見返してわかりやすいノートづくり

単元終了後のアンケートでは，「ノートを工夫して書いている」と答えた児童は，２７名中２０名であった。その多くは，工夫していることを「間をあけて見やすく書く」「絵や図をかく」「友達や自分の考えを書く」と挙げている。この結果から，多くの児童に『見やすいノート』を作ろうとする意識が高まったといえる。また，他教科のノートにも，今回の取り組みは波及しており，更によいものを作ろうとしている。

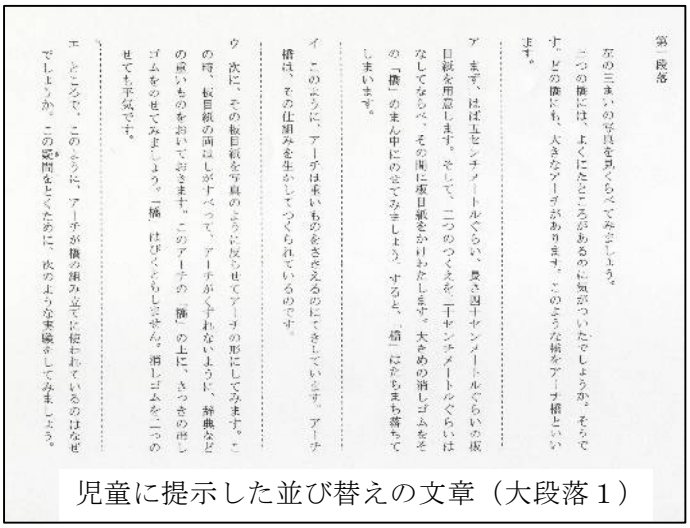
算数のノート



数値の意味を言葉で書き表している。

(2)文章構成に着目させるための素材提示の工夫

ワークシートの工夫



第一段落

五の三まいの写真をくらべてみましょう。

二つの橋には、よくにたところがあるのに気がついたでしょうか。そうです、どの橋にも、大きなアーチがあります。このような橋をアーチ橋といいます。

ア　まず、はば五センチメートルぐらい、長さ四十センチメートルぐらいの板目紙を用意します。そして、二つのつくえを、十センチメートルぐらいはなしてならべ、その間に板目紙をかけわたします。太さの消しゴムをその「橋」のまん中にのせてみましょう。すると、「橋」にからまち落ちてしまいます。

イ　このように、アーチは弱いものをささえるのにできています。アーチ橋は、その仕組みを生かしてつくられているのです。

ウ　次に、その板目紙を写真のように反り返せてアーチの形にしてみます。この時、板目紙の両はしがすべって、アーチがくずれないように、辞典などの重いものをおいておきます。このアーチの「橋」の上に、さっきの消しゴムをのせてみましょう。「橋」はびくともしません。消しゴムを二つのせても平気です。

エ　ところで、このように、アーチが橋の組み立てに使われているのはなぜでしょうか。この疑問をとくために、次のような実験をしてみましょう。

児童に提示した並び替えの文章（大段落１）

文章構成に着目させ，根拠を持って文章構成を考えられるように，本文を意図的に並び替えた資料を子ども達に提示した。

形式段落ごとを並べ替え，文章構成を考えるには，まず，考えのもとになる知識を児童全員に共通理解させる支援が必要であろうと考えた。その知識があれば，それをもとに子ども達一人一人が根拠を考えたり，ノートに書いたりできると考えた。

そこで，大段落の１では，文章のどこに着目すれば文章を正確に並び替えができるのかをクラス全体で考え「接続語（まず・次になど)」や「指示語（このように・そこに)」や「疑問の投げかけ（でしょうか)」などの言葉に着目できるようにさせた。子ども達は「接続語」「指示語」「問題提示」などの働きについて考えを深めることができた。また，正しい文章になおしたいという意欲を子ども達が持ち，すすんで文章を正しくなおすための根拠を考えることができた。

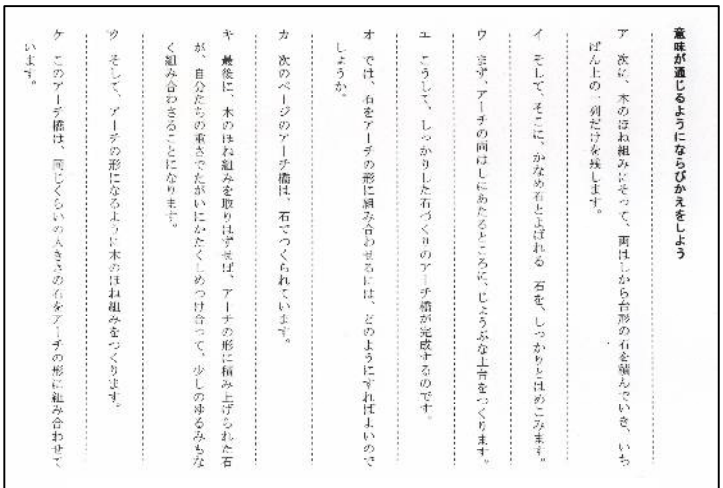
【学習後の児童の感想】

○予想が外れて残念だったけど，「まず」や「次に」の使い方が少し分かった。

段階を踏んだ根拠を書かせる活動

大段落２では，大段落１で学習したことを生かし，その知識を使い根拠を持って一人一人が考えることができるように，同じ方法で，やや難易度を上げた文章を子ども達に提示した。

児童は考え方が分かってきたので，「まずがあるから，これはもっと前のほうだ」「このようには，まとめる言葉だから最後のほうだ」など文章構成について自分の考えを持ち，ノートに書いて考えることができるようになってきた。



意味が通じるようにならびかえをしよう

ア　次に、木のほね組みにそって、両はしから台形の石を積んでいき、いちばん上の一列だけを残します。

イ　そして、そこに、かなめ石とよばれる　石を、しっかりとはめこみます。

ワ　さて、アーチの両はしにあたるところに、じょうぶな土台をつくります。

ユ　こうして、しっかりした石づくりのアーチ橋が完成するのです。

オ　では、石をアーチの形に組み合わせるには、どのようにすればよいのでしょうか。

カ　次のページのアーチ橋は、石でつくられています。

キ　最後に、木のほね組みを取りはずすと、アーチの形に積み上げられた石が、自分たちの重さでたがいにかたくむすびつけ合って、少しのゆるみもなく組み合わさることになります。

ク　そして、アーチの形になるように木のほね組みをつくります。

ケ　このアーチ橋は、同じくらいの大きさの石をアーチの形に組み合わせています。

児童に提示した並び替えの文章（大段落２）

個人で考えた後，全体で話し合った時も，ただ答えを言うのではなく，根拠を含めた発表もすることができるようになってきた。

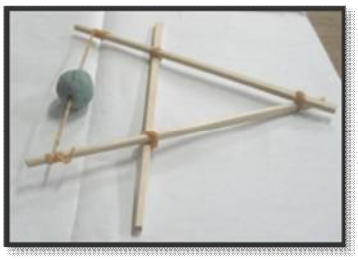
【学習後の児童の感想】

○１時間目と同じような文章だったので「まず」「次に」「こうして」の順でつながるのがわかった。「そして」がどこに来るのがわからなかったのがくやしかった。でも，話し合いで「その」を考えたり，内容から考えていったりすることがわかった。授業が楽しかった。また，挑戦したい。

このように，段階を踏んで学習することで，児童は自分の考えの根拠を書くことができるようになった。

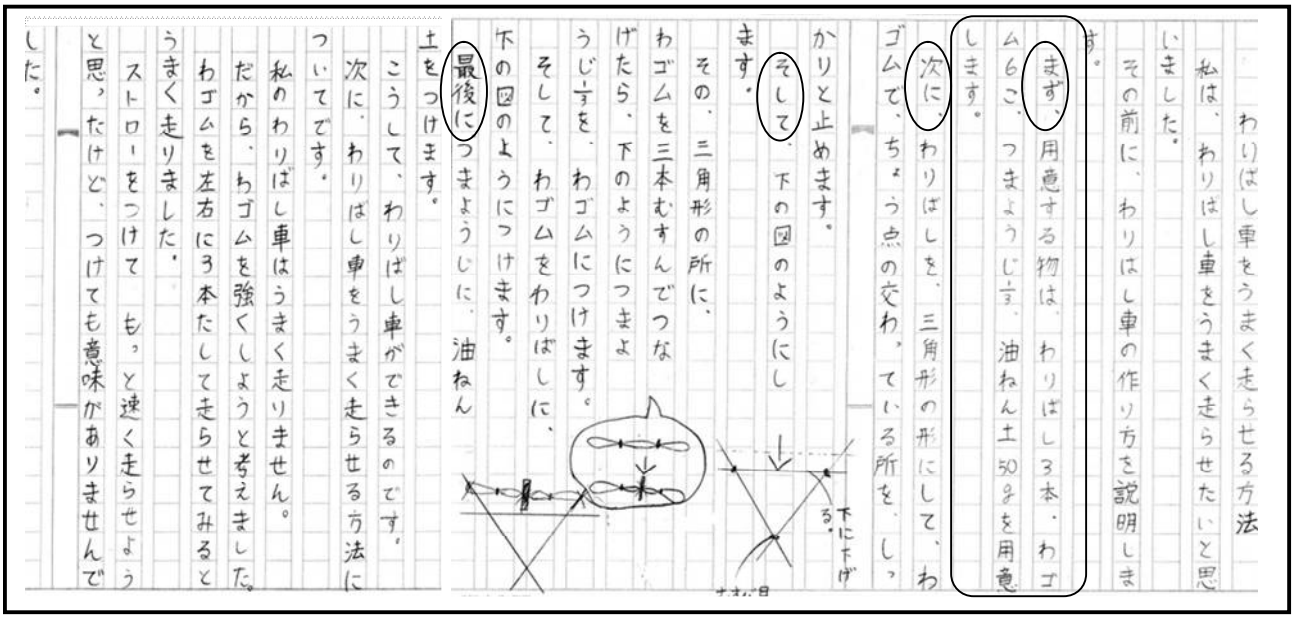
(3) 学んだことを生かした記録文づくり

「アーチ橋の仕組み」の表現のよさを生かして、右のような「わりばし車」(わりばし製でゴムを動力として走る車)を作り，作り方や工夫したことを記録文としてまとめる活動を行った。思考を整理し，わかりやすい表現とすることができるように以下のことを留意点として伝えた。



① 絵や図を入れて作り方を説明する。
② 用意するものを数字を入れて具体的に書く。(記録文 □ の部分)
③ 順を追って簡潔に書く。(記録文 ○ の部分)

【Ａ児の記録文】



わりばし車をうまく走らせる方法

私は、わりばし車をうまく走らせたいと思いました。

その前に、わりばし車の作り方を説明します。

まず、用意する物は、わりばし3本、わゴム6こ、つまようじ3、油ねん土50gを用意します。

次に、わりばしを、三角形の形にして、わゴムで、ちょう点の交わっている所を、しっかりと止めます。

そして、下の図のようにします。

その、三角形の所に、わゴムを三本むすんでつなげたら、下のようにつまようじ3を、わゴムにつけます。

そして、わゴムをわりばしに、下の図のようにつけます。

最後につまようじに、油ねん土をつけます。

こうして、わりばし車ができるのです。

次に、わりばし車をうまく走らせる方法についてです。

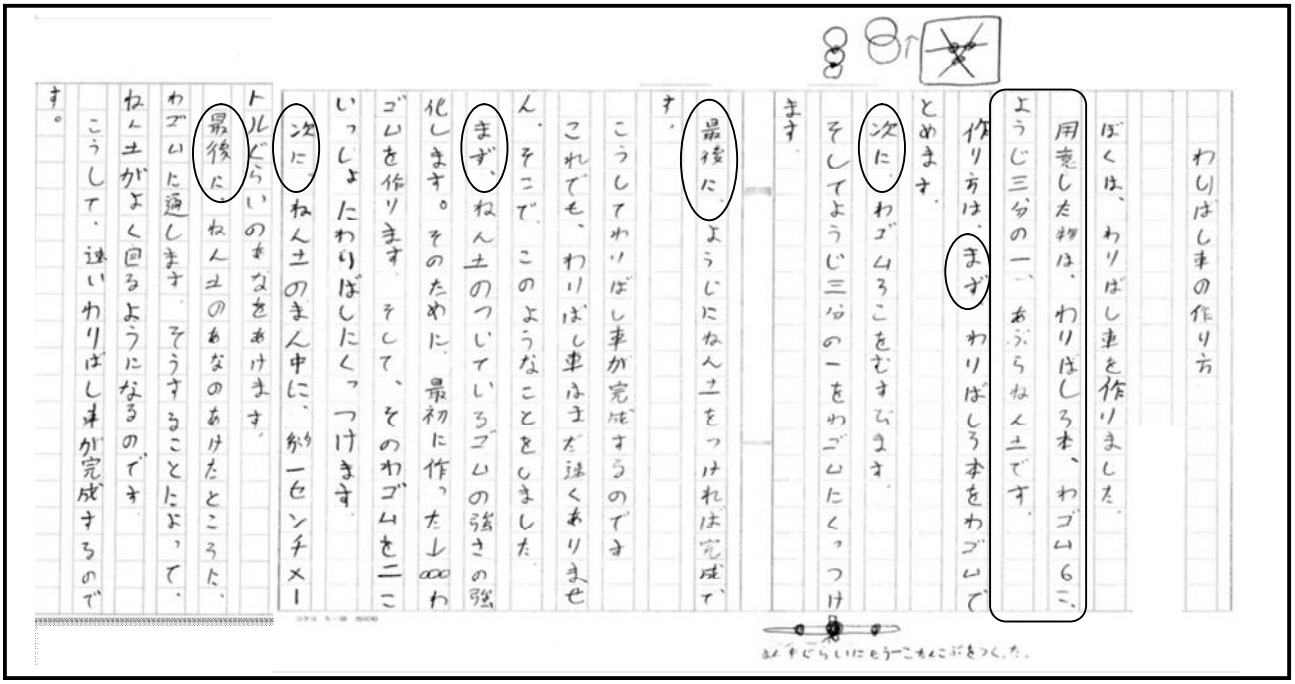
私のわりばし車はうまく走りません。

だから、わゴムを強くしようと考えました。

わゴムを左右に3本たして走らせてみるとうまく走りました。

ストローをつけて もっと速く走らせようと思ったけど、つけても意味がありませんでした。

【Ｂ児の記録文】



わりばし車の作り方

ぼくは、わりばし車を作りました。

用意した物は、わりばし3本、わゴム6こ、ようじ三分の一、あぶらねん土です。

作り方は、まず わりばし3本をわゴムでとめます。

次に、わゴム3こをむすびます。

そしてようじ三分の一をわゴムにくっつけます。

最後に、ようじにねん土をつければ完成です。

こうしてわりばし車が完成するのです。

まず、ねん土のついているゴムの強さの強化します。そのために、最初に作ったゴムを作ります。そして、そのわゴムを二こいっしょにわりばしにくっつけます。

次に、ねん土のまん中に、約一センチメートルぐらいのまるをあけます。

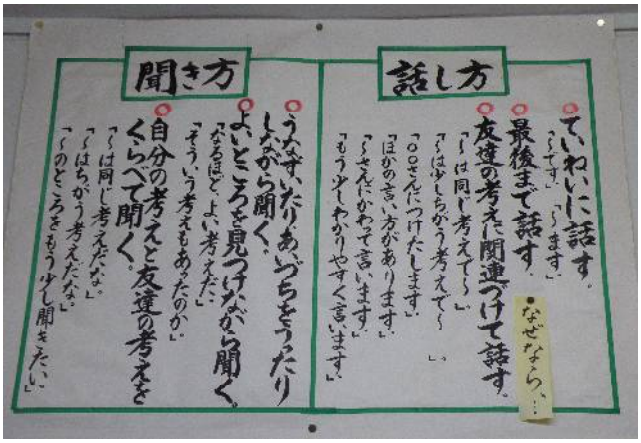
最後に、ねん土のあなのあけたところに、わゴムに通します。そうすることによって、ねん土がよく回るようになるのです。

こうして、速いわりばし車が完成するのです。

「わかりやすさ」「伝わりやすさ」を考え，自分なりに表現方法を工夫して記録文を書くことができた。書いた記録文は児童同士で相互評価を行った。

〔仮説2　話し合い活動の工夫〕

(1)接続語を意識した話し合い活動



児童が自分の考えを明確に伝えたり，聞き手が話し手の意見をより理解したりするよう指導した。教室には右のような話し方・聞き方についての見本を掲示し，児童の発表の際には，常に接続語を意識しながら発表するよう，継続的に指導した。わかりやすく発表したり，しっかり反応したりした児童を指導者が称賛するとともに，指導者自身も語り出しの言葉を意識して発問を行った。

しかし，まだ経験が少ないため，十分定着したとはいえない状況である。今後も継続して指導していく必要があると感じた。

(2)話し合う形態の工夫

一人一人の発言の場を保証し，自信を持って発表できる場の設定

児童が自分の考えを，自信を持って相手にわかりやすく伝えることができるようにしたいと考えた。そのため，「少人数だと話しやすい。」という児童の心理的な面を考慮し，検証授業の後半，一人読みをして，重要な語句にサイドラインを引き全体で確認した後，読み取ったことを図や写真を使ったり自分で絵や図を書いたりして，ペアで説明し合う場を設定した。

その際，隣り合っている２人の机を向かい合せにするようにした。これは，「よし，○○さん（君）と話すんだな。」という意識を強く持たせたかったことと，まっすぐ相手の目を見て声もきちんと出させたかったからである。

【ペアで説明し合う場面において】

Ａ：じゃあ，先に話すよ。

自分のノートをＢによく見えるように持ちあげて，図や写真を指し示しながら

Ａ：これから，石で造られたアーチ橋の仕組みについて説明します。同じくらいの大きさの石を，アーチ橋に組み合わせていきます。

Ｂ：一番初めに何をするの？

Ａ：あっ，そっか，

「まず，」じょうぶな土台を作ります。

「そして，」アーチの形になるように木のほね組みを作ります。

「次に，」両端から台形の石を積んでいき，一番上の一列だけを残します。

「そして，」かなめ石と呼ばれる石をしっかりとはめ込みます。

「最後に，」木のほね組みを取り外せば，固くしめつけ合います。

よし，ＯＫ！　（相手の説明を聞く）

Ｂ：（拍手）じゃあ，今度は僕の番ね。

Ｂが発表する。Ｂも同様に，ノートの図や写真を指し示しながら説明した。

Ａ：（拍手）まだ時間がある。もう１回やってみる。

Ｂ：わかった，いいよ。聞いてる。

ペアの相手に，自分なりに読みとったことを説明することで，自分自身の説明を振り返ることができる良い機会となった。その後，全体に説明する時に，「先にペアで発表したから，みんなの前でもうまく話せた」と話す児童もいた。

検証授業以外でも，本学習単元全体の中で少人数グループでの活動をまず行い，次に全体活動へとつながるような場を何回か設定した。児童は少人数グループの活動で，お互い励まし合って「話す」ことへの自信を少しずつつけていくことができた。

(3)図や写真等を活用した話し合い

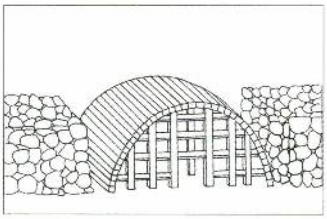
写真や図を手がかりに大段落２を正しい順に並び替える

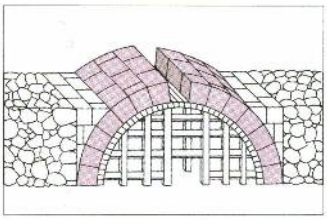
本時では，個人での活動として大段落２の本文の並び替えを行った。接続語と指示語に着目して並び替えを行ったが，読み取りが苦手なため戸惑いを見せる児童も見られた。そこで，本文に対応した「石づくりのアーチ橋の作り方」の図を提示することで，並び替えの手がかりとした。

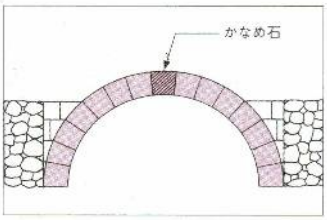
また，「石づくりのアーチ橋」の写真を提示することで，具体的なイメージを持てるようにした。

これらの支援を通して，全ての児童が本文の並び替えを行い，根拠を書くことができた。また，それが話し合うための土台となった。

図と大段落２の本文を対応させながら説明し合う





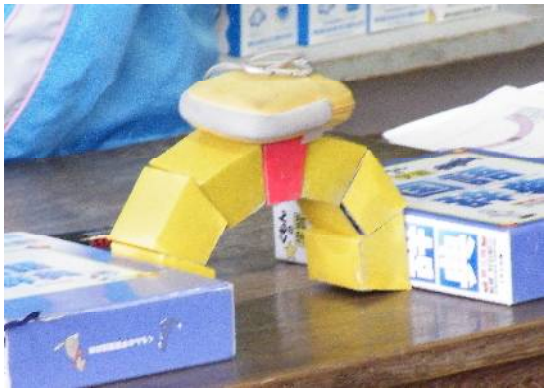


大段落２の本文の並び替えを終えた後，ペアで読み取ったことを説明し合う活動を行った。

そこでは，図を使いながら，友だちに橋を作る過程を説明する様子が見られた。特に，「土台」「木のほね組み」「台形の石」「かなめ石」などのキーワードをおさえ，それを指し示しながら相手に要点を伝えようとしていた。また，自分で橋ができていく様子を書きながら説明する児童もいた。

図を活用することで，石づくりのアーチ橋が作られていく過程を話し手・聞き手の双方が具体的にイメージし，理解することができた。

アーチ橋の模型を示すことで，文章の読み取りを深める



最後に，学習のまとめとして，アーチ橋ができる過程を模型で示した。児童は，本文の並び替えや要約を通して読み取った内容を視覚的に確認することで，理解を深められた。特に，指導者が「かなめ石」をはめこみ，「木のほね組み」をはずし，アーチ橋が完成した場面では，児童から歓声が上がった。児童がアーチ橋の仕組みについて理解を深め，感動したことがうかがえる。

授業での児童の思考の流れ

	学　習　活　動	具体的な手立て
	【並べた順番とその理由について全体で話し合う場面】	［仮説２］（２）
T	ちょっと，迷ったなという人？どこで迷いましたか？	・話し合う形態の工夫〈全体〉
S4	最後になりそうなところがいっぱいあったところ。	→ｄ②・③
T	最後になりそうなところってどういうこと？	S4 は並べる順番を迷っていた。同じように迷っている児童が多かった。全体で話し合う活動を取り入れたことにより，指導者の発問に S1 が答えながら，クラス全体で並べる順番を確認できた。
S4	答えみたいなところ。	
T	そうか。答えみたいなところってどれとどれ？	
S4	ウとオ	
T	問題と説明と答えのうち，（ウ）「こうしてしっかりした石造りのアーチ橋が完成・・・。」はどれにあたるの？	
S1	**まとめとか答えになりそう。**	
T	まとめとか答え。では，こっち（オ）「最後に，・・・」はどう？	
S1	**説明の答え。**	
T	ウとオは，どっちか前にくる？	
S1	**オ**	
T	たくさん迷っていた人がこれ。エとカの場所で迷った人手を挙げてごらん？	［仮説１］（２）
S	（迷った児童は手を挙げる）	・段階を踏んだ根拠を書かせる活動
T	Ｓ５さんの並べた順番を言ってごらん。	→ｃ②・ｄ①
S5	エ→カ→「イ→ア→オ」→ウ。	並べた順番の理由を指導者が意識して聞くことにより，発表者はメモした理由を自分の言葉で説明している。
T	理由は？	
S5	**イのところで「まず」で作り方を言っていて，アも作り方だし，オも最後にと作り方が入っているから。**	
T	イ→ア→オの並び順はいいですか。	
全S	はい。	［仮説２　］２）
S1	**説明している。「まず」「次に」「最後に」の順番で，説明している。**	・話し合う形態の工夫〈全体〉
T	では，みんなが順番で迷ったエとカはどこに注目すれば並び替えられる？	→ｄ②・③
S	**カの「このアーチ橋」**	S5 同様に並べる順番を迷っている児童が多い。全体で話し合う場面を設けたことにより，クラス全体で並べる順番を確認できた。
T	「このアーチ橋」の「この」ってどのアーチ橋？	
S	**石でつくられているアーチ橋**	
T	ということで正解は？	
TS	**カ→エ→イ→ア→オ→ウ**	
	【読み取ったことを図や写真を使ったり，自分で絵や図を書いたりしてペアで説明し合う場面】	［仮説２］（２）
S1	**これから，石で作られたアーチ橋の仕組みについて説明します。同じくらいの大きさの石をアーチ橋に組み合わせていきます。**	・話し合う形態の工夫〈ペア〉
SP	一番最初に何をするの？	→ｄ①・③
S1	**あっ，そっか，**	ペアで説明し合う活動を取り入れた。 S1はアドバイスをもらい，満足のいく説明ができるようになった。
	「まず，」じょうぶな土台を作ります。	
	「そして，」アーチの形になるように木の骨組みを作ります。	
	「次に，」両はしから台形の石を積んでいき，一番上の一列だけを残します。	
	「そして，」かなめ石とよばれる石をしっかりとはめこみます。	
	「最後に，」木の骨組みを取りはずせば，固くしめつけ合います。	
	よし，OK ！	
	（相手の説明を聞く）	
	【全体に説明する場面】	［仮説２ ］（３）
T	模型を作ってきましたので，これを操作しながら説明できる人？	・図や写真，模型等を活用した話し合い
	実際に作ってくれる人？話をしながらだよ。	→ｄ①
S	（挙手）	模型を活用した説明を行うことで，クラス全員がアーチ橋の仕組みを実感をともなって理解できたと考える。模型を使った説明はとても有効である。
S8	**「まず，」アーチ橋の両端にあたるところにじょうぶな土台を作り，「そして，」アーチの形になるように木の骨組みを作ります。**	
	「次に，」木の骨組みにそって，両端から台形の石を積んでいき，一番上の一列を残して・・・	
T	残します。だね。	
S8	（実際に模型を積み重ねる）	
T	みんな，いいね。この積み方でいいよね？「両端から」って書いてあるもんね。	
S	はい。	
S8	**「そして，次に，」その真ん中にかなめ石をはめ込みます。**	
	（かなめ石をはめ込む）	
	「最後に，」木の骨組みをはずします。	
	（模型内側の木の骨組みをはずす）（橋は崩れない！）	
全	おおーっ（拍手）	
S8	**積み上げられた石が自分たちの重さで固くしめつけ合って，少しのゆるみもなく組み合わさることになります。**	
全	（拍手）	

7. 考　察

仮説1「書く活動の工夫」について

(1)理由や根拠をはっきりさせるノートづくりの工夫について

児童が思考の足跡を残せるよう，ノートづくりについて一斉指導を行った。書き込み用ノートを用いて，自分の考えの理由や根拠を記述しやすくした。学習が進むにつれ，自分の考えをどのように配置して書くと見やすいのか，考えて書くようになった。しかし，これには授業の中で児童が記述する時間を，指導者が十分確保することが必要である。

ノート指導をすることで，指導者が児童の思考を把握しやすくなったり，児童が指導者のコメントを見て学習に前向きになったりした。また，見返してわかりやすいノートづくりをすることで，学習に深まりが出てきた。

(2)文章構成に着目させるための素材提示の工夫

文章構成に着目させるために，本文を意図的に並び替えた資料を児童に提示し，正しい順番にさせた。目的がはっきりしているので，意欲的に課題に取り組んだ。並び替えについての話し合いをしたことで，接続語の使い方や問題提示文など，筆者の文章構成の工夫を理解することができた。

また，大段落２の学習では，大段落１で学習したことを生かし，その知識を使い，根拠を持って一人一人が文章構成を考えることができるようになった。

(3)学んだことを生かした記録文づくりについて

今回の学習では，「読むこと」領域と「書くこと」領域を関連づけ，「アーチ橋の仕組み」で読み取った表現の工夫を生かした記録文を児童に書かせた。本文を読み取る際に文章構成に着目させたり，記録文を書くときにその型を示したりすることで，わかりやすい文章となるように工夫して書く姿が見られた。また，書いた記録文を児童同士で相互評価することで，相手にわかりやすく伝えるには筋道立てて説明することが大切であると実感させることができた。

仮説2「話し合い活動の工夫」について

(1)接続語を意識した話し合い活動について

単元終了後に実施したアンケートで，「接続語を意識して発表していますか」という項目について，約７割の児童が「意識して発表している」と回答した。しかし，国語だけでなく，他の教科や学級活動などにおいても，自分の考えを相手にわかりやすく伝えようと意識させる必要がある。また聞き手についても，話し手の意図を予測したり，自分の意見と比較したりしながら聞く姿勢を育て，集団思考を深めていきたい。

(2)「話し合う形態の工夫」について

一人一人の発言の場を保証し自信を持って発表できるよう，全体で話し合う前に少人数で説明し合う場を設定した。自分の説明の仕方についての評価を聞くことで，自分の意見を再構築することができたのは有効であった。しかし，自信をもって発表させるためには，違うペアで行ったり，徐々に３人，４人と人数を増やしたグループで練習を行ったりする等，話し合う機会を増やしていきたい。

(3)「図や写真等を活用した話し合い」について

大段落２の本文の並び替えや読み取ったことを説明し合う活動では，読み取りを苦手とする児童には，文章だけでは十分な理解が図れなかった。そこで，図や写真を活用させることで，児童は並び替える根拠に気付き，話し合いの土台を作ることができた。

まとめの場面では，アーチ橋のできる過程を，模型を使って説明することで，本文の内容をより明確に理解することができた。

第３章　中学校の実践

１．単元名　「国際社会での日本の役割」

２．単元について

（１）単元観

本単元は，新学習指導要領社会科公民的分野「（４）私たちと国際社会の諸課題」の中の「国際社会における我が国の役割について考えさせる。」にあたる内容である。

現在の日本は，景気の低迷，雇用情勢の悪化などに苦しむ経済状況ではあるが，広い世界から見ると「世界でもっとも豊かな国の一つ」といわれている。実際，2008 年のＧＤＰのランキングでも世界第３位という位置を占めている。世界を見渡すと，日本のように経済的・社会的に発展している国は，ほんの少ししかない。経済成長の途中にある「開発途上国」とよばれる国々は，日本のような状況には程遠く，生活，医療，教育，インフラの整備などさまざまなことで国際的な援助を必要としている状態である。このような世界の中で，日本は，国際協力機構を通じて，産業の振興を図るための施設や設備をつくったり，技術移転を進めたりしている。さらに，青年海外協力隊の派遣などによる技術協力や教育支援なども行っている。また，ＯＤＡ（政府開発援助）とよばれる世界各国の政府への資金協力も行ったりしている。こうした援助が，開発途上国の経済成長の一助となっているのである。しかし，地域の実態を十分に踏まえていない援助の場合，その国の人々にとっては，マイナスの事態を呼んでいるという例もあるという。日本のＯＤＡの支援によって建設されたインドネシアのコトパンジャンダムは，その一例といわれている。その国や地域の実態に応じた支援が大切であるといえる。現在では，国や政府だけでなくＮＧＯと呼ばれる多くの民間の団体も，開発途上国の援助を行っている。今後もさまざまな形で，国際援助を続けていくことが，日本を含め経済的に発展している国々の責務であるといえよう。

これからの国際社会の中に生きる生徒にとって，国際援助の実際を理解したり，そのあり方を考えたりする学習は，非常に意義があると考える。平和で民主的な国家・社会の形成者としての公民的資質の基礎を養うことを目標とする社会科において，本単元は重要な単元の一つであると捉えている。

（２）生徒の実態（男子１８名，女子１９名　計３７名）

本学級の生徒は，授業において全体的に教師の説明や指示をよく聞き，黒板の内容をノートに視写し，学習に取り組めている。ただ，強い問題意識を持って，自分から積極的に資料を読み取り，調べてまとめようとする意欲については，やや欠ける。本単元に大きく関連する「世界の国々の格差」に対する生徒の理解の実態を把握するため，以下の内容のアンケートを行った。

１．現在の日本は，世界の多くの国々と比べたときに，「豊かな国」だと思いますか。〔選択式〕
　　思う　　どちらかというと思う　　どらかというと思わない　　思わない
２．１のように答えた理由を書いて下さい。〔記述式〕
３．「豊かでない国」は世界のどのあたりに多いと思いますか。下の地図で，そう思われる地域を線でかこんで下さい。（地図略）〔選択式複数可〕
４．「豊かでない国」について，どんなイメージを持っていますか。〔記述式〕
５．「豊かでない国」には，何が足りないと思いますか。〔記述式〕

世界に関するアンケートの結果から，生徒の多くは，「日本は豊かである」と感じていることが分かった。その大きな理由としては，「食べ物に不自由しない」，「家がある」，「好きなものが手に入る」などの回答が多かった。「どちらかというと思わない」と答えた数名の生徒も，現在の日本の経済的

な状況を考えた回答が多く，物質面での豊かさは実感しているようである。

「豊かでない国」のイメージとしては，アフリカの国々が強くあるようである。しかし，それ以外の地域の貧困については，あまり認識がないようで回答もさまざまであった。また，豊かでない国に足りないものについては，「経済力，お金」と，「食べ物，栄養」という回答が多かった。「学校」「医療」「技術」などと答える生徒は少なく，人が関わる協力について意識している生徒はあまり多くないことが分かった。

（３）指導観

①さまざまな資料を活用し，開発途上国の実態を理解させる。

開発途上国の実態を文献や統計資料だけでなく，写真や映像資料なども活用しながら，具体的に捉えさせ，この学習全体に対する興味・関心を高めていきたい。

②現在行われている日本の国際援助について一人一人に調べさせる。

現在，日本では，政府や民間レベルで，開発途上国に対してさまざまな援助が行われている。しかし，生徒だけでなく多くの大人も実際にどんな援助が行われているのかを詳しくは知らない そこでさまざまな国際援助がどのように行われているのかを，生徒に具体的に調べさせていきたい。

③のぞましい国際援助のあり方についてクラス全体に考えさせる。

さまざまな支援が行われている中で，その国の実態にあっていない援助の場合は，かえってマイナスとなってしまうという事例から，国際援助ののぞましい支援のあり方を考えさせたい。

④実際に国際援助へ行かれた人の話を聞かせる。

さまざまな資料を活用したとしても，実際の具体的な状況は，詳細までは理解しがたい。そこで，今回の授業では，実際に海外に行き，援助活動を行ってきた方を教室にお招きし，授業を行いたい。事前に話していただく内容や提示していただく資料等を相談し，援助の実際について，生徒に効果的に捉えさせていきたい。

⑤自分たちにできることを考えさせる。

学習を通して，日本に生きる私たちに何ができるのかというところを学習の最後には考えさせたい 開発途上国の実態や現在行われているさまざまな援助などを知り，私はこうかかわりたいというものが持てればよいと考えている。現在，本校でとりくんでいる「エコキャップの回収活動」など，ちょっとしたことからできる援助も含め，今回の学習を通して深めた認識から何か行動してみようという意識化を図れればと考えている。

３．仮説とのかかわり

〔仮説１〕追究する場面において，理由や根拠をはっきりさせて書く活動を工夫をしていけば，子どもの思考力を高めることができるであろう。

【具体的な手立て】

（１）ワークシートの活用

理由や根拠をはっきりさせて書かせるために，それらを記述できるようなワークシートを活用する。ワークシートには，自分の考えとともに理由や根拠を書かせる欄を設け，それを書くことを毎時間繰り返していく。そうすることで，自分の意見の理由や根拠を明確にするということの習慣化を図る。そして，話し合いの際，自らがワークシートに書いた考えをもとに，しっかりと自分の意見を述べることができるようにしていく。

また，考えを書かせるワークシートの継続的な活用は，学習における自らの思考過程を記録として残すことができる。さらにワークシートに書いたことを自らが見返すことで，これまでの考えを振り返り，自らの思考の変容などを確認することができる。

（２）理由や根拠を引き出すような資料の提示

生徒達のこれまでの既習事項や体験のみを理由や根拠にさせようとしても、これまでに得た知識や体験に差があり、あいまいな考えしか持てないことが多い。また、本や新聞などの活字だけでは、表面的な理解にとどまっているしまうこともある。そうならないためにも、さまざまな資料を精選して生徒に提示していく。その中で現地の様子もわかる視覚に訴えるような資料を提示することにより、生徒の感性を揺さぶり、具体的な理解を促し、思考を深めるような形をとっていく。そうすることで、生徒は開発途上国の実態について具体的に捉えることができ、自分自身の考えを理由や根拠をはっきりさせて書くことができるようになると考える。

〔仮説２〕磨き合う場面において，友だちの考えと関連させて自分の考えを深める話し合い活動を工夫していけば，子どもの思考力を高めることができるであろう。

【具体的な手立て】

（１）話し合うテーマと場面設定の工夫

話し合うテーマは,「一番に考えなければならないことは何か。」「このことの一番の問題点は何か」など生徒どうしが意見を交えたくなるようなものを設定し,生徒に考えさせていくことが大切である。

また、ゲストティチャーに意見を聞いてもらう形の話し合いの場面の設定をする。これは，自分の考えを友だちだけでなく，来て下さったゲストティーチャーにも伝えたいという学習への意欲化にもつながり，話し合いが深まる手立ての一つとして考えられる。

（２）話し合う形態の工夫

学習過程と生徒の状況を踏まえ，話し合う人数や方法を工夫していく。

学習過程の中で，ペアやグループといった少ない人数による話し合い活動を取り入れる。ペアやグループの形態は，全体で意見を言うことが苦手な生徒にとっても抵抗が少ない。大人数よりも発表しやすい雰囲気がつくられると考える。また，自分の考えを表現する機会が増えることで，自分自身の考えを整理することにもつながる。ペアやグループでの話し合いを通じて整理された意見を，学級全体の話し合い活動に生かせるようにしたい。少人数による話し合いの方法としては、司会、記録といった役割を事前にはっきり決め、話し合いをできるだけ円滑に進める工夫を図りたい。

学級全体での話し合い活動は，個々の意見を言ったり，グループとしての意見を伝えたりすることが考えられる。多くの生徒のいる学級全体で話し合うことは，それだけいろいろな考えを関連させて，自分の考えについて深めたり，広げたりすることができる。

（３）生徒の意見や立場を視覚的に示す工夫

それぞれの生徒の意見や立場を視覚的に示すことによって，自分自身や友だちの意見や立場を明確にし，話し合いが活性化するような工夫をする。

そのために活用できる教具の工夫として，Ａサイズのホワイトボードがある。グループごとに，ホワイトボードに考えを書き，それを教室の黒板に貼り出すことで，グループの考えを学級全体に示すことが可能となる。グループの話し合いを学級全体へとつなげるときに，積極的に活用していく。

また，各自の意見や立場をはっきりさせたいときには，付箋を利用したい。グループに配られたホワイトボード上に，全員が考えを書いて意見や立場を示していくことは大切であるが，時間的に無駄が多い。そういった際，付箋を利用し，グループ用に配られたホワイトボード上に，おのおのが考えを書いた付箋を貼る。それにより，作業する時間の短縮が図れるだけでなく，グループで話し合う際，賛成や反対の立場が，付箋の貼られた位置から明確になったり，考えが書かれた付箋を読むことで相手に考えを簡潔に伝えることができたりする，というよさがある。

黒板やホワイトボード上に友だちの考えが，カードや付箋を使って貼られ，視覚的に意見や立場が示されることによって，相手の考えに関連させて自分の考えを深めようとする意識の向上を図ることができ，話し合いの活性化につながると考える。

４．全体計画

（１）指導目標

○開発途上国の実態や国際援助について関心も持ち，進んで調べたり，考えたりすることができる。【社会的事象への関心・意欲・態度】

○日本の国際援助活動の現状やあり方について，さまざま観点や立場から考察し，自分の考えを持つことができる。【社会的な思考・判断】

○さまざまな資料を収集し，学習に役立つ情報を選択し活用して，調べたことや考えたことを表現することができる。【資料活用の技能・表現】

○開発途上国の実態や日本の政府や民間の援助活動について理解することができる。【社会的事象についての知識・理解】

（２）全体指導計画（６時間扱い）

学習過程	時　間	学　習　内　容　と　活　動	おもな資料教具
問題把握 見通しを 持つ	第１時 (本時)	○開発途上国の実態を知り，どんな援助が必要か考える。 ・先進国と開発途上国の違いを知る。 ・考えられる日本の国際援助を予想する。	ビデオ（TV 番組「世界がもし１００人の村だったら4　チョコレートがどんな食べ物かも知らずカカオ農園で働く兄弟」）
追究する	第２時 第３時	○日本の国際援助の実際を一人一人が調べる。 ・世界の各地で行われている日本の国際援助について具体的な様子を知る。 ○お互いに調べたことの情報交換を行い，さまざな事例について知る。	インターネット 外務省，JICA などのﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ 世界地図
磨き合う	第４時 第５時	○のぞましい日本の国際援助のあり方について考える。 ・援助がマイナスになってしまった例から，援助には何が大切か考える。 ○国際援助活動を体験された方からお話を聞き，考えを広げたり，深めたりする。 ・開発途上国の実態や現場の声を知る。 ・現地での具体的な援助活動を知る。 ・日本の国際援助のあり方について考えを深める。	コトパンジャンダムの建設資料 青年海外協力隊を経験された方（JICA に国際協力出前講座を依頼） 現地の写真や映像
まとめる	第６時	○これからの日本の国際援助や私たちにできることを考え，学習をまとめる。	

５．本時の指導

（１）目標　・先進国と開発途上国の差について，資料から必要な情報を読み取り，分かったことや考えたことを表現することができる。（資料活用の技能・表現）
・先進国と開発途上国の差から，日本はどんな協力をすればよいか自分の考えを持つことができる。（社会的な思考・判断）

（２）展開（１／６）

学習過程（時配）	学習内容と生徒の活動 ・予想される生徒の反応	形態	○指導上の留意点，支援 ☆評価	資料，教材 教具等
課題把握 （５分）	１．世界約190カ国の４分の３は「開発途上国」とよばれる国であることを知る。 ・日本は世界で3位の豊かさである。 ・豊かな国は少ない。	一斉	○教室を世界の縮図と考えると，３７人中３０人近くは，開発途上国の人々という例えを用いる。	ＧＤＰランキング 世界地図 ワークシート１
	先進国と開発途上国の間の差について考えよう。			学習問題の模造紙
	開発途上国の実態はどうなっているのだろうか。			
追究する （７分）	２．映像でＧＤＰのﾗﾝｷﾝｸﾞ100位のガーナの子どもたちがどんな生活をしているのかを知る。	一斉	○「チョコレートを知らない子どもたち」のビデオを見る。	アフリカ地図
（５分）	３．ビデオを見て知った日本との差について分かったことや，問題に感じたことを発表する。 ・子どもが働かなくてはならないほど貧しい。 ・チョコレートを知らないほどものがない。 ・チョコを消費している日本人が，この現実を知らない。	一斉	○配布資料として，ガーナの地図や統計資料のプリントも用意する。 ○分かったことや考えたことの理由や根拠まで発表させるようにする。 ☆資料から必要な情報を読み取ることができたか。（資料活用）	ﾁｮｺﾚｰﾄを知らない子どものﾋﾞﾃﾞｵ ガーナの統計資料
（５分）	４．「貧困」が引き起こすさまざまな問題を整理する。 ・学校に行けないので，読み書き計算などの能力が身につかない。 ・収入が少ない。 ・栄養がとれない。 ・病気にかかりやすい。	一斉	○ガーナは100位という点から「貧困」に苦しむ国は，ガーナだけではないことをおさえる。 ○貧しさから生まれる悪循環を整理しながら，日本の協力にも関心を持たせる。	貧困のサイクルの図
	日本はどんな協力ができるだろうか。			
（８分）	５．開発途上国に対して，日本はどんな協力をすることが考えられるか，ワークシートに自分の考えを書く。 （貧困のｻｲｸﾙの図をﾍﾞｰｽに）	個人	○書けない生徒には，ビデオに登場したような子どもたちの生活を改善させるためにといった視点で考えるようにさせる。	ワークシート２
磨き合う （７分）	６．どんな協力が考えられるか，班で話し合う。	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	○班長を中心に進め，一人一人が考えを言うようにさせる。	発表用画用紙と付箋
（８分）	７．どんな協力が班の話し合いの中で出てきたか，班の代表が発表する。 （最優先すべき援助は何か）	一斉	○班として意見がまとまっていれば，それを発表するようにさせる。 ☆自分の考えを友だちの考えと比べながら話したり，聞いたりすることができたか。（表現）	
まとめる （５分）	８．話し合いをもとに，改めて自分の考えをまとめる。 （最後に，日本が行っている支援を次時から調べることを伝える。）	個人	☆調べたことや話し合いなどを基に，根拠を持って，自分の考えを書けているか。（思考・判断）	

６．生徒の変容

〔仮説１　「書く」活動の工夫〕

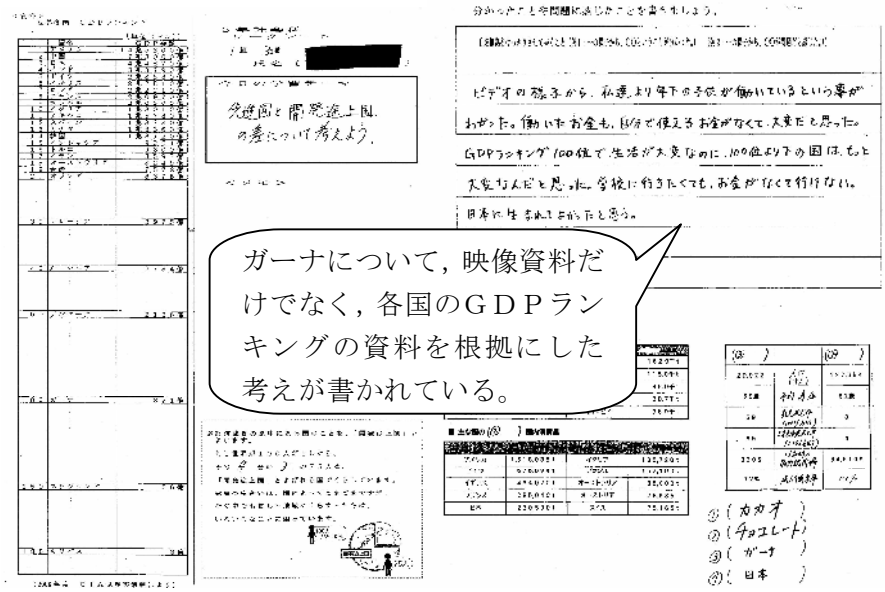
（１）ワークシートの活用

考えの根拠となる情報を読み取らせる工夫

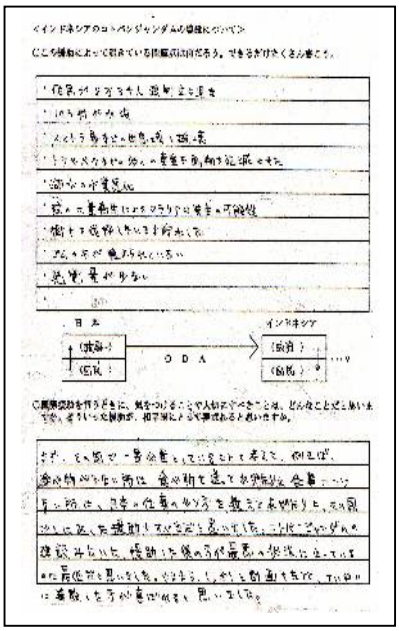
第１時の授業では，生徒に事実を捉えさせるために，「各国のＧＤＰの数値のランキング」や「アフリカ諸国のカカオの生産量と先進国のチョコレートの消費量」などの資料を添えて，感想や考えを記入できるようなワークシートを活用した。注目させたい資料をワークシートの中にはっきりと示したことは，生徒に考えを持たせ書かせていく上で効果的であった。

第４時では，国際援助でのマイナスの事例として注目された「インドネシアのコトパンジャンダム」についての資料を読み取らせた。その際，ワークシートにダムの問題点を箇条書きで書かせる欄を設けた。こうしたことで生徒は，自分の考えを書く前に問題点を整理することができた。

＜第１時のワークシート＞



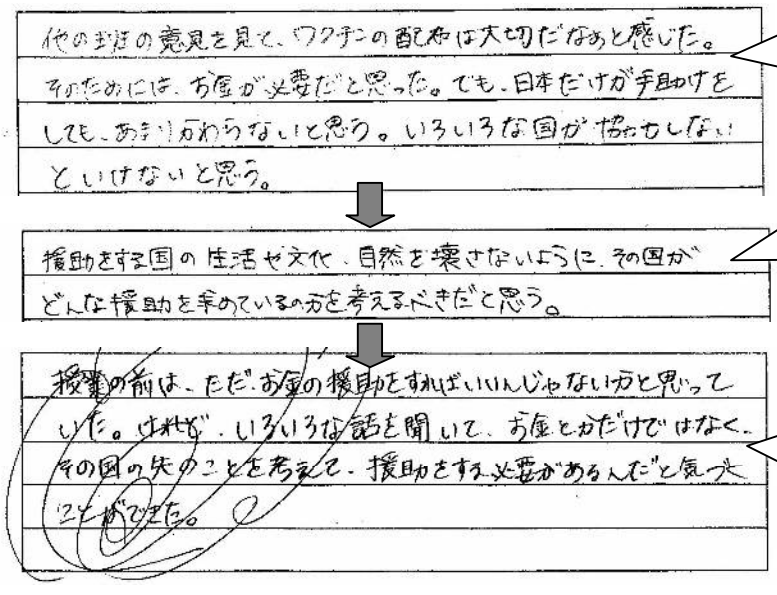
＜第４時のワークシート＞



思考の変容とその振り返り

どの時間についても，授業の最後には考えをワークシートに書かせる活動を継続させた。また，ワークシートは，ファイルに綴じておかせたため，自らの考えを見返し，思考の変容を確認しながら学習を進めていく様子が見られた。

＜生徒Ａの変容（ワークシートより）＞



〔第１時終了時の考え（上段）〕
他の班の意見を参考にして，自分の意見が書かれている。援助に関しては，漠然と書かれている。

〔第４時終了時の考え（中段）〕
第１時の漠然さとは違い，援助の際に，注意しなければいけないことも記述できた。

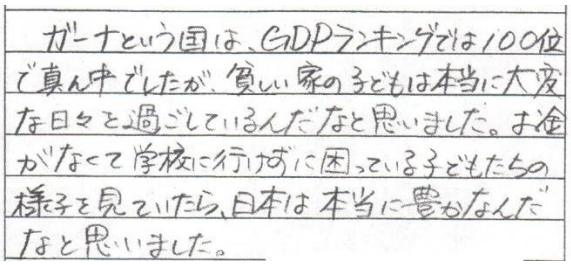
〔第６時終了時の考え（下段）〕
授業を通して，身につけた知識から援助する側，される側についての考えも記述されている。第１時とは大きな変容が見られた。

（２）理由や根拠を引き出すような資料の提示

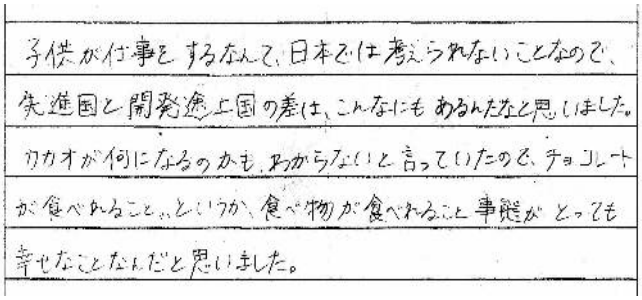
視覚に訴える資料の提示

①現地の様子がわかるビデオの提示

第１時では，ＧＤＰランキングの資料を提示したあとガーナの子どもたちのビデオを視聴した。文献資料，統計資料のみの提示よりさらに具体的に問題を捉えられるようになった。〔**ワークシート１**〕生徒の感想からも，ただ漠然と他国の様子を捉えるのではなく，自分の生活と対比させながら考えていることがわかる。〔**ワークシート２**〕


ガーナという国は、GDPランキングでは100位で真ん中でしたが、貧しい家の子どもは本当に大変な日々を過ごしているんだなと思いました。お金がなくて学校に行けずに困っている子どもたちの様子を見ていたら、日本は本当に豊かなんだなと思いました。

〔ワークシート１〕

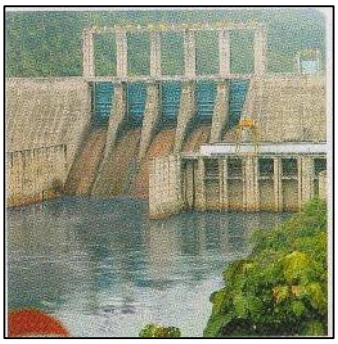

子供が仕事をするなんて、日本では考えられないことなので、先進国と開発途上国の差は、こんなにもあるんだなと思いました。カカオが何になるのかも、わからないと言っていたので、チョコレートが食べれること、というか、食べ物が食べれること事態がとっても幸せなことなんだと思いました。

〔ワークシート２〕

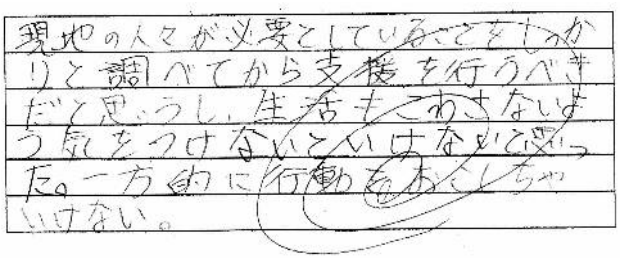
第５時では，青年海外協力隊経験者の河合さんのお話の中で，インドネシアでの映像を紹介していただいた。生徒は映像に見入り，現地の様子に思いを馳せていた。

②現地の様子がわかる写真の提示

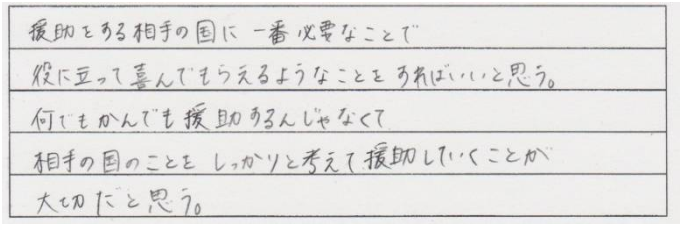
援助がマイナスになってしまったコトパンジャンダムの例を提示する際，現地の写真をともに提示することで現地の人々の生活ぶりを想像し，より身近な問題として捉えることができた。〔**ワークシート３**〕さらにそこから生まれた思いを理由や根拠の一つとして活用し，「ただ援助をすれば問題が解決するわけではない」という，より深い思考が生まれた。〔**ワークシート４**〕



〔現地の写真〕


現地の人々が必要としていることをしっかりと調べてから支援を行うべきだと思うし、生活をこわさないよう気をつけないといけないと思った。一方的に行動をおこしちゃいけない。

〔ワークシート３〕


援助をする相手の国に一番必要なことで役に立って喜んでもらえるようなことをすればいいと思う。何でもかんでも援助するんじゃなくて相手の国のことをしっかりと考えて援助していくことが大切だと思う。

〔ワークシート４〕

文献資料，統計資料に加え，写真や映像といった視覚に訴える資料の提示を効果的に行ったことで，問題を具体的に捉えさせることができた。このことは，漠然と問題を捉えた抽象的な思考ではなく，理由や根拠がはっきりした「自分自身の考え」を引き出すのに大変有効であった。

〔仮説２　「話す」活動の工夫〕

（１）話し合うテーマと場面設定の工夫

話し合うテーマとしては，「最優先で考えたい協力は？」「一番の問題点は？」というように何を一番に挙げるかという形のテーマを多く取り入れた。順位付けをする手法を用いることによって，生徒の話し合いに対する意欲が高まった。数多くの意見の中から最もよい意見はどれか選択していくために，判断の根拠や理由を明確にしたり，前後の意見のつながりを考えたりしながら話し合いを行うことができた。（次頁参照）

場面設定の工夫としては，自分の考えを「伝えたい」という生徒の気持ちが高まるタイミングを重視した。話し合いの前に自分の考えをワークシートに書かせたり，調べ学習の時間を設けたりして意見を交換したくなるタイミングで話し合いをさせた。さらに，単元のまとめの段階で青年海外協力隊の経験者をゲストティチャーとして招き，自分たちが今まで学習してきた成果を話し合いという形で見てもらう場面を設定した。

以下の左側は単元の授業の流れ，右側は生徒Ｎの授業後の考えの変容である。

≪授業の流れ≫

○ガーナのビデオ視聴後，
「貧しいままのこの流れを止めるには」ということに関して個人で検討

↓

テーマ：「最優先で考えたい協力は？」（第１時）

○日本のＯＤＡについて調べ学習（第２時）

○調べたことを発表し合う（第３時）

○インドネシアのコトパンジャンダムの建設について（援助の失敗例），「問題点は何か」ということについて個人で検討

↓

テーマ：「一番の問題点は何か？」（第４時）

○海外協力隊経験者（河合さん）をゲストティチャーとして招いての授業（第５時）

テーマ：河合さんが協力隊に参加するにあたって最も大切にしていたことは？

○まとめ（第６時）

＜生徒Ｎの思考の流れ＞

〔第１時終了後〕
学校に行けないと能力が身につかないから，学校を建てるお金を募金すればよいと思う。

☆遠い国の話にとどまっている段階

〔第３時終了後〕
こんなにたくさんの援助をしているなんて知らなかった。これからも他の国に協力してあげてほしい。

〔第４時終了時〕
相手国の政府だけでなく，国民の意見も聞き，どうしたらいいのかを話し合う。国民の意見を尊重し，納得してもらってから建設しなくてはいけない。

☆相手国に対する理解を深め，援助のあり方を考えている段階

〔第５時終了時〕
援助される側の意見を尊重しながら行っていく。コミュニケーションを取り合って，笑顔になってもらうことが大切だと思う。

〔第６時終了時〕
開発途上国に支援したいという気持ちが授業を終えてさらに強くなった気がします。自分ができることから始めていきたいです。

☆援助について自分ができることを真剣に考えることに至った段階

上記のような話し合い活動を単元を通して意図的に組んでいったことで，生徒Ｎの考えにみられるような，国際援助についての思考を深めていくことができた。

（２）話し合う形態の工夫

クラス全体での話し合いとは別に，ペアやグループの形態で話し合うことを取り入れた結果，生徒たちは，自分の意見を相手に伝えようとすることができた。特に単元の導入部分で，「日本はどんな国際協力ができるだろうか。」という課題をグループで話し合ったところ，活発な話し合い活動が行われた。普段の生活班は６人グループ編成だが，ここではあえて４人グループにし，全員が積極的に話せるようにした。その様子の一部を，表１に示す。

〔表１　グループでの話し合い活動の様子〕

A（司会者）：やっぱり日本の医療はすごいはずだから，医者を送るのがいいと思う。
B：医療技術は大事だよね，一応。医者を出すこと。
D：ボランティアもよくない？
C:だけど，ただで働くの？
A：仕方がないよ，貧しい国なんだから。お金がない国で働くんだから，ボランティアなんだろ。
D：そうだよ，それで，貧しい国がいろいろなことに使えるようにするためにお金をためるのが，募金でしょ。
A：どうする？医療にするか，募金にするか。
①皆の意見を聞き，集約して方向性を示している。
C:でも，私が書いた，日本の伝統的な技術を教えるってのも，ありだと思うんだけど。
A：①そうなんだけど，今の時点で，みんなが出してる意見として一致してるのは，医療と募金なんだよね。
D：②募金だったらさ，いろんな使い道ができるから，いいんじゃない？
C:そうだね，学校に行けない，というのも，お金があれば，なんとかなるんじゃないかな？だから，真っ先に解決したいところを，「学校に行けない」にして，ボランティアと募金を最優先って考えたら？
A：学校に行けない，という問題を解決するのに，どういうボランティアをするんだよ。
C:大工とか，かな。
A：それより，やっぱりこっち（病気になる）のほうで，医者や薬を送る，ってほうが，大事だと思わない？
C:けど，ガーナっていう国の人のために，日本が一番役に立つってなるのはきっと，学校をつくることで・・・。
D：②募金だったら全部の問題につながるんだけど，どこの問題を解決しようって言うの？
②自分の意見の問題点を皆に聞き，考えを深めようとしている。
B：③でも，学校に行けないって言うのはさ，子供が仕事しているから行けないんであってさ。だったらボランティアを派遣して，必要な仕事をやればいいんじゃない？
A：③でも子供が働くのは，母親が病気になっちゃったりするからだろう？　貧しくて困るのは，まず病気だから，医療提供する方が，最優先じゃないの？
③相手の意見と関連させて，自分の意見を強く出している。
B：そうじゃなかったら，職業提供。
A：ボランティアを提供するで，そのボランティアも，医師を派遣する，というのはどうかな。
D：うん，ボランティアで，医師団体をつくって，その団体を派遣する，っていうのが一番かも。
C:理由は？
A：ボランティアは，無料でしょ？お金をかけずに，治療ができるようにしてあげられるよ。
D：できれば，薬も，寄付してあげたいよね。ワクチン接種とか，できるように。
C:そうだよね。開発途上国なんだから，医療機関もあまりないから，ちゃんと治療できない。でも，日本は先進国で，医療技術も結構優れているから，優れた医療を使えば，病気は治りやすいし，すごく相手の国のためになると思う。
A：じゃあ，まとめてみるよ。「学校に行けない」っていうのは，親がきちんと働けないから。そして，親が働けないのは，病気になってしまっているからが多い。その病気を治すために医療を提供する。この考えでいい？
B：まあ，病気になるのは，栄養がとれないからなんだけど・・・。
④話し合いを通じて，教師が示した問題を，自分達の気づきとして捉えられた。
A：④まあ，問題はぐるぐる回り続けて，止まらないんだけどね。
B：（貧困の）サイクルは止まらない・・・。やっぱ，募金かなあ。何にでも使えるしなあ。
A：でも，医療の提供にしようよ。みんなの付箋も，病気のところに集まっているし。学校に行けないのは，親の病気が原因なことが多いんだろうし。

表１に示した話し合いの様子から，教師のねらい通り，４人のグループにすることで，どの生徒も積極的に自分の考えを伝えていることがわかる。

さらに，生徒Ｃに着目してみる（太字部分）。生徒Ｃは，話し合いの前から，日本の国際協力活動についてさまざまな意見を持っていたが，並列的に意見を挙げているだけで，どの意見が良いかは選ぶことができずにいた。しかし，話し合い活動を通して，グループとしての意見を集約していく過程で，自分の考えを整理することができるようになった様子が分かる。

写真１　グループの話し合いの様子

下線④＿＿では，話し合い活動を行った結果，自分たちの考えとして，貧困のサイクルという途上国の問題を捉えられた様子が伝わってくる。話し合いで，自分たちの気づきとして途上国の問題を理解できたことによって，単元全体の学習に対する意欲が高まった。

（３）生徒の意見や立場を視覚的に示す工夫

グループでの話し合い活動の際に，話し合い用のホワイトボード（**写真２**）を用意し，それぞれの考えを付箋紙に書き込ませ，シートに貼らせた。１グループ４名であったので，付箋紙は４色用意し，その付箋紙を誰が書いたのか，すぐにわかるようにした。この付箋紙によって生徒たちは，どの問題点に意見が集中しているのか，自分と同じ考え・違う考えを持つ友だちは誰なのか，すぐにわかった。その結果，なぜ同じ考えなのか・違う考えなのかという疑問を持つことができ，相手の意見の根拠に注意して聞こうとすることができた。また，自分の考えを視覚的に示すことで，普段はあまり積極的に話さない生徒も，自分の考えを伝えようとし，活発な話し合いが行われた。これは，誰がどの意見なのか明確になり，それぞれが説明の責任を感じることができた結果だと思われる。

写真２　話し合い用ホワイトボード

授業後，生徒に「このような話し合い用のホワイトボードを使った話し合いはどうか」とアンケートをとったところ，「見てすぐにわかるから，話し合いがしやすかった」「自分と同じ意見・ちがう意見がすぐにわかっていい」という回答を多く得られた。

写真３　貧困のサイクルの板書

また，このホワイトボードと同じ『貧困のサイクル』を板書し，グループでの話し合いの後，グループごとの考えをカードに書かせ、黒板に貼り付け、クラス全体の意見交流に用いた（写真３）。グループでまとまった意見も，他のグループと比較すると数ある考えの中の一つなのだということがわかった。さらに単元を通して，この貧困のサイクルをクラス掲示し，自分たちの国際協力の考えは第１時と比べてどう変化したのか，自分達の考えの深まりを生徒達が捉えられるようにした。

〔全時間の生徒の思考の流れ〕

		生徒Ｙ	生徒Ｋ	生徒Ｉ
問題把握・見通しを持つ	第１時	ガーナは GDP ﾗﾝｷﾝｸﾞでは，100 位でしたが，貧しい家の子どもは，本当に大変な日々を過ごしているんだなと思った。お金がなくて学校に行けずに困っている子どもたちの様子を見ていたら，日本は，本当に豊かなんだなと思いました。	子どもたちが朝から夜まで働いている様子を見て，とても貧しい所なんだということが分かった。お金がなく学校へ行けない子どもたちもいるので，とてもかわいそうだと思った。自分たちは，恵まれているんだなと思った。	先進国と開発途上国では大きな差がある。学校に行けない子どもたちがたくさんいることは，問題。働くことに大人も子どもも関係なさそう。たくさんの問題がある。
		やはり食べ物を食べなければ働くこともできないし，病気を引き起こす原因になると思うから，食料の寄付が大切だと思う。	病気の予防のためワクチンなどを送れば，病気で死ぬ人も少なくなる。たくさん働ける。	生きていく中で大切な食料をとって元気になれば仕事もできるので，まず募金して食料を買ってあげる。
追究する	第２時	〔ｶﾒﾙｰﾝ教育施設整備を調べて〕 日本は，小学校建設計画を支援をしていたのでえらいと思った。日本は，カメルーンから感謝されていることが記念切手の発行の様子から分かった。	〔ラオスの橋建設を調べて〕 日本はインドネシアに大量をお米を送っていて，貧しい人たちは救われたと思う。日本がラオスに橋を作ったことにより，経済発展をしたのでよかったと思う。	〔ﾁｭﾆｼﾞｱの橋建設を調べて〕 チュニス湖運河で南北に分断されている地域を結ぶ橋を建設した。日本は感謝され，切手まで発行され，光栄だと思った。日本は意外といろんなことをしているなと思った。
	第３時	日本はたくさん他の国に援助していてえらいと思いました。これからもこういうことを継続させていけばいいと思いました。	自分が思っていた以上に日本は他の国にいろいろなことをしていて，がんばっているなと思った。	日本はいろいろなことをしている。ただ，まだ援助しきれていないところもあると思った。
磨き合う	第４時	ダムを造るんだったら，造る場所をよく考えた方がいいと思いました。住民に何を造ってほしいか要望をよく聞き，必要なものを造ってあげればいいと思います。	現地の動物や自然のことを考えてつくったあとでも，みんなが不満を持たないようにちゃんと考えて作る。さらに相手国が今一番必要なことをしてあげると喜ばれると思いました。	その国とよく話し合うことが大切だと思う。何もかもやってしまうとその国を甘やかすことにもなりそう。まず，みんなの心を変えさせる。(戦争とかはやめる。)住民の意見もしっかり聞く。
	第５時	第一にコミュニケーションが大切だと思いました。もちろんお金やものは大切だけれど，ココロのケアが一番大切だと思いました。そうすれば元気を出してくれると思います。	ただものを与えるのではなくて，自分たちで自立していけるようにしなければならないと思いました。そして，その国がなぜそのような状態になったかを調べて，改善して行かなければ思う。	河合さんが行っている援助が大切だと思う。援助なしでも自分たちで生活をしていけるようにすることが大切だと思う。
まとめる	第６時	まず，お金を寄付をしてあげられると思います。あとは，私が得意な水泳やなわとびを教えてあげられると思います。	自分では，その国に行くことができないので，せめても，寄付をして，開発途上国に行って援助をしている人の役に立ってほしいと思う。	募金やエコキャップを集める。使わなくなったものを寄付する。考えればいろいろと出てくると思う。
		私は初め，お金だけを寄付すればいいと思っていたけれど，河合さんの話を聞いて，「ココロ」が一番大切なんだなと思いました。私は，河合さんのような援助はできないと思うけど，本当に大切なことだと思いました。	自分たちが当たり前と思っていることが当たり前に行えない人もいるので自分たちは豊かだということを改めて思った。そして，自分のできる精一杯のことをしていきたいと思った。	前から生活が大変そうな国があることは知っていたけど，今回授業で学んで，自分が思っているより，現状はもっと厳しいんだなと思った。将来，そういう人たちを助けられるような人になりたい。現地にも行ってみたい。

７．考察

〔仮説１　「書く」活動の工夫〕

（１）「ワークシートの活用」について

今回は，社会的事象からじっくりと考えさせることに重点を置き，自作のワークシートを活用して授業を進めた。ワークシートを活用することで，教師が生徒に考えさせたい内容を焦点化し，生徒に考えを書かせることができた。また，理由や根拠を引き出したい資料などをワークシートの中に併記する工夫を行ったことで，資料を活用することが苦手な生徒も，自分の考えの理由や根拠となる内容を資料から導き出す姿が見られた。（ｃ①，②）

学習活動全体を通して，考えを書くことを意識した自作のワークシートを活用したことにより，生徒は，毎時間の自己の考えを振り返ることができた。これは，自らの思考の変容を認識し，思考の深まりを実感させる上で有効であった。

（２）「理由や根拠を引き出すような資料の提示」について

今回の学習では，できるだけ多くの資料の収集や選定，吟味に努め，教科書や資料集の中の資料に加え，青年海外協力隊経験者からの写真や動画，テレビ番組の映像といった視覚に訴える資料の提示を行っていった。こうしたことで，生徒は，開発途上国の実態や，実際の援助の様子について，具体的に捉えることができ，これまでの学習と比べ，理由や根拠をはっきりさせて自分の考えを書くことのできる生徒が増えた。（ｃ②）

〔仮説２　「話す」活動の工夫〕

（１）「話し合うテーマと場面設定の工夫」について

今回の話し合い活動の中では，「最優先したい援助は何か」「このことの最大の問題は何か」「国際援助にあたって，ゲストティーチャー（青年海外協力隊経験者）の方が，最も大切にしていることは何か」というように，何を一番に挙げるかという形のテーマを多く取り入れた。順位性をつけ，話し合わせることにより，「お金だけ渡しても，心が伝わらなければ援助とは言えない。だから心の通った援助が一番大切だ。」というように，生徒は話し合うべきテーマを意識し，しっかりと根拠や理由を入れて意見を述べることができた。（ｄ①）また，何を一番に挙げるかを話し合う中で，友だちの意見と比較しながら，自分の考えを広げたり，深めていく様子が見られた。（ｄ②）

一人調べを行った後やゲストティーチャーに来ていただいた時など，学習過程の中に話し合いの場面を意図的に位置づけた。これにより，自分の考えを「伝えたい」という気持ちを持って，活発に話し合いを行うことができた。

（２）「話し合う形態の工夫」について

学習過程の中で，ペアや１グループ４人の話し合い活動を取り入れた。少人数による話し合いの形態によって，全体で意見を言うことが苦手な生徒も進んで意見を言うことができた。（ｄ①）。生徒の話し合いからは，個々の意見がグループの意見として集約されていく中で，それぞれが初めに持っていた考えが再構築されていく様子が伝わってきた。（ｄ②，③）少人数で行った話し合いを自分の考えの根拠と付け加え，学級全体の話し合い活動の中で自信を持って意見を述べる生徒も見られた。

（３）「生徒の意見や立場を視覚的に示す工夫」について

付箋を利用し，グループ用に配ったホワイトボード上に，おのおのが考えを書いた付箋を貼る手法を取り入れたことで，グループで話し合う際，各自の考えが視覚的に示されることとなり，それをもとに意欲的に発言する生徒の姿が見られた。（ｄ①）また，意見の相違を容易に捉えることができ，友だちとの考えを比較しながら，話し合うことができた。（ｄ②）そのほか，グループごとの考えをカードに書かせ，それを教室の黒板に貼り出した。それにより，グループ間の考え方の違いが明確となり，グループで行われた話し合いを学級全体へとつなげることができた。

考えや意見を視覚的に示しながら学習を進めていくことは，思考の変容を確認する上でも有効であった。

（※文中のｃ①～ｄ③は，前述の「『思考力』を高める上でのめざす子どもの姿」の表を参照）

第４章　研究の成果と課題

１　成果

「書く」「話す」活動を工夫して取り入れることは，思考力を高めるために有効である

（１） 理由や根拠をはっきりさせて書く活動の工夫

小学校では，日常的に理由や根拠をはっきりさせるためのノート指導を行った。その結果，自分の考えが明確になり，考えの変容にも気づくことができた。

中学校では，ワークシートの中に理由や根拠を引き出すための資料等を掲載した。また，できるだけ多くの資料の収集を行い，吟味・選定をしたり，青年海外協力隊経験者からの写真や動画，テレビ番組の映像といった視覚に訴える資料の提示を効果的に行ったりした。

ノートやワークシートを書かせる際，指導者は,児童生徒の書いた文章に継続的に目を通し，指導・支援の言葉を書き入れることで，児童生徒の思考をより深めることができた。

（２）自分の考えを深める話し合い活動の工夫

全体で話し合う前に少人数で自分の意見を話し合う場面を小・中学校ともに設定した。このことで，一人一人の発言の機会が保証され，自信をもって話すことができた。

小学校では，文章だけでは理解できない児童には，図や写真・模型等を使っての話し合いをさせた。これらのものを用いながら話すことで，共通理解を図ることができた。

中学校では，テーマの設定を意識し，「最優先したい援助は何か」「最大の問題は何か」などのように何を一番に挙げるかという形のテーマを多く取り入れた。順位をつけて話し合わせることで，話し合う内容を意識することができ，理由や根拠を入れて意見を言うことができた。また，一人調べを行った後やゲストティーチャーに来ていただいた時など，学習過程の中に話し合いの場面を意図的に位置づけた。そのことで，学習内容に対する関心が高まり，生徒は意欲的に話し合うことができた。

２　課題

（１）他教科でも思考力を高める話し合い活動を

話し合い活動では，接続語を意識させたり，話し合う形態を工夫したりすることなどを通して，「考えを広げたり深めたりする力」を高めていった。しかし，一教科だけでその力を高めることは難しい。これからは他教科にもその取り組みを広げ，習慣化していく必要がある。

（２） 指導計画への適切な位置づけ

「書く」「話す」活動は，支援の工夫によって思考力を高めるのに有効であった。しかしこれらの活動は非常に時間がかかることもわかった。思考力を高めるための「書く」「話す」活動を重点的に取り組む単元や題材などを吟味し，年間を見通して計画的に指導を行っていく必要がある。

研究発表における講師からの指導

１　期日　　平成２２年２月１０日（水）

２　講師　　庄司　智子　先生（南房総教育事務所安房分室　指導主事）

３　指導内容

（１）研究テーマについて

・新学習指導要領においても「思考力・判断力・表現力」の育成は重要課題である。今回のテーマ「思考力を高める」ことは、大変意義がある。キーワードは「言語力（言語活用能力）」。言葉を使って考え、表現をすることは言語活動の充実につながり、各教科を貫く視点として重要である。「思考力・判断力・表現力」を育成するためには、活用型の学習活動、さらに「言語活動の充実」も大切。特に、今年度は思考力を高めるために「追究する」「磨き合う」過程で「話す」「書く活動」の工夫をしたことは、聞いていてわかりやすい。

（２）教材について

①国語

・国語は、言語力の育成において収穫の教科。教材である相手にわかりやすく説明すること、また説明的文章は、テーマに適している。全体計画に手だてが示されていて良い。授業では、①段落の並び替え②自分で文章を再構築③理解と表現の一体化がなされており、「アーチ橋の活用」という一つの学習材を読む必然性があり、子どもの思考力につながっている。

②社会

・社会科は、言語力の育成においては手段。特に、話す・書くを重視し、テーマに合った教材である。さまざまな資料が大事。多角的・多面的に考えられる資料が良い。話し合いのテーマが良かった。また、グループの話し合いによる問題解決の設定があって良かった。

（３）仮説について

①「書く」活動の工夫について

・一人一人で考える時間の保障をし、考えの整理、根拠は何か、学習課題は何か等、思考の足跡のわかるノート作りがなされている。表現をすることで考えの足りなさに気づく。絵や図を使うことで、表現をしながら思考が高まる。国語では、コメント、机間指導、図・絵の成果はすばらしい。社会では、ワークシートの活用、授業の最後に書く、振り返る等、書く活動の成果があり、思考力を高まった。さらに、ノート指導と併用しながら書く活動を積み重ねると良い。

・国語が他教科に生きるように「書く活動」を大切にしていきたい。

②「話し合い」活動の工夫について

・ペアグループにすることで、対話ができ、発表の機会を増やすという点で成果があった。しかし、話し合う内容、いつだれとだれをペアにするかを考える必要がある。

・友達の考えを「つなぎ言葉」の接続詞に目を向けて、技から教えるのも一つだが、「ささやかな違い」がわかる耳をもたせ、「なぜそう考えるのか」根拠を明らかにした指導も大切である。

・国語では、「話す」と「話し合う」は違う。アーチ橋」の文章を自分の言葉で説明すること（話すこと）は良かったが、「話し合うこと」課題が残る。社会では、自分の考えをホワイトボードの付箋は、考えの違いがわかり、多角的多面的にとらえることができ、非常に効果的。

・「発問」が大事。発問で読みを深めていく。「どうしてかなめ石を使うのか？」みんなで話し合うことが大事。

（４）総括

①授業において相互交換の場づくりが大切。意図的に、ポイントをしぼって言語活動の充実に努め、実生活や他教科に生きるようにしたい。

②思考力を高めるため、具体的な９年間の子どもの姿を掲げ、段階的な指導に努めたい。

研究発表における講師からの指導

１　期日　　平成２２年２月１０日（水）

２　講師　　庄司　智子　先生（南房総教育事務所安房分室　指導主事）

３　指導内容

（１）研究テーマについて

・新学習指導要領においても「思考力・判断力・表現力」の育成は重要課題である。今回のテーマ「思考力を高める」ことは、大変意義がある。キーワードは「言語力（言語活用能力）」。言葉を使って考え、表現をすることは言語活動の充実につながり、各教科を貫く視点として重要である。「思考力・判断力・表現力」を育成するためには、活用型の学習活動、さらに「言語活動の充実」も大切。特に、今年度は思考力を高めるために「追究する」「磨き合う」過程で「話す」「書く活動」の工夫をしたことは、聞いていてわかりやすい。

（２）教材について

①国語

・国語は、言語力の育成において収穫の教科。教材である相手にわかりやすく説明すること、また説明的文章は、テーマに適している。全体計画に手だてが示されていて良い。授業では、①段落の並び替え②自分で文章を再構築③理解と表現の一体化がなされており、「アーチ橋の活用」という一つの学習材を読む必然性があり、子どもの思考力につながっている。

②社会

・社会科は、言語力の育成においては手段。特に、話す・書くを重視し、テーマに合った教材である。さまざまな資料が大事。多角的・多面的に考えられる資料が良い。話し合いのテーマが良かった。また、グループの話し合いによる問題解決の設定があって良かった。

（３）仮説について

①「書く」活動の工夫について

・一人一人で考える時間の保障をし、考えの整理、根拠は何か、学習課題は何か等、思考の足跡のわかるノート作りがなされている。表現をすることで考えの足りなさに気づく。絵や図を使うことで、表現をしながら思考が高まる。国語では、コメント、机間指導、図・絵の成果はすばらしい。社会では、ワークシートの活用、授業の最後に書く、振り返る等、書く活動の成果があり、思考力を高まった。さらに、ノート指導と併用しながら書く活動を積み重ねると良い。

・国語が他教科に生きるように「書く活動」を大切にしていきたい。

②「話し合い」活動の工夫について

・ペアグループにすることで、対話ができ、発表の機会を増やすという点で成果があった。しかし、話し合う内容、いつだれとだれをペアにするかを考える必要がある。

・友達の考えを「つなぎ言葉」の接続詞に目を向けて、技から教えるのも一つだが、「ささやかな違い」がわかる耳をもたせ、「なぜそう考えるのか」根拠を明らかにした指導も大切である。

・国語では、「話す」と「話し合う」は違う。アーチ橋」の文章を自分の言葉で説明すること（話すこと）は良かったが、「話し合うこと」課題が残る。社会では、自分の考えをホワイトボードの付箋は、考えの違いがわかり、多角的多面的にとらえることができ、非常に効果的。

・「発問」が大事。発問で読みを深めていく。「どうしてかなめ石を使うのか？」みんなで話し合うことが大事。

（４）総括

①授業において相互交換の場づくりが大切。意図的に、ポイントをしぼって言語活動の充実に努め、実生活や他教科に生きるようにしたい。

②思考力を高めるため、具体的な９年間の子どもの姿を掲げ、段階的な指導に努めたい。